

国頭村観光振興基本計画（案）

2017 - 2027



平成 29 年 3 月

国頭村



— 目 次 —

はじめに

第 1 章 〈命・癒し・健康〉をコアとした国頭村の地域振興政策の概要

- 1.1 既存の上位計画・関連計画 ……5
- 1.2 国立公園・世界自然遺産指定への対応 ……9
- 1.3 〈命・癒し・健康〉を基本理念とする観光振興基本計画の策定 ……11

第 2 章 国頭村の観光のこれまでの取組みと課題

- 2.1 〈命・癒し・健康〉をコアとする観光振興の 3 要素 ……12
- 2.2 自然環境を活かした観光のこれまでの取組みと課題 ……15
- 2.3 産業・歴史文化を活かした観光のこれまでの取組みと課題 ……18
- 2.4 スポーツツーリズムの推進に向けたこれまでの取組みと課題 ……25
- 2.5 村内の観光基盤整備に関するこれまでの取組みと課題 ……28

第 3 章 「くんじゃんツーリズム」推進のための基本方針と取組み内容

- 3.1 【自然環境】【産業・歴史文化】【スポーツ】を統合する「くんじゃんツーリズム」 ……32
- 3.2 自然環境の保全と持続性を実現したエコツーリズムの推進 ……35
- 3.3 産業・歴史文化の連携、活用によるグリーン・カルチャーツーリズムの推進 ……37
- 3.4 健康増進・スポーツ振興の更なる充実を図るスポーツツーリズムの推進 ……39
- 3.5 「くんじゃんツーリズム」推進のための 3 つの柱を支える受入基盤整備 ……41
- 3.6 取組みの効果を検証するための目標水準 ……51

第 4 章 地区別「くんじゃんツーリズム」の推進構想

- 4.1 辺土名地区 ……53
- 4.2 西部地区 ……54
- 4.3 東部地区 ……55

第 5 章 「くんじゃんツーリズム」の主体形成

- 5.1 国頭観光協会設置と観光政策推進の体制 ……56
- 5.2 行政と村民の果たすべき役割 ……57
- 5.3 進行管理 ……58

資料編

はじめに

1. 計画策定の背景と目的

豊かな自然に恵まれた沖縄本島北部の国頭村は、文化財や史跡、伝統芸能などの魅力的な観光資源にも恵まれ、多くの学びを体感できる地域です。

貴重な亜熱帯林であるやんばるの森は、平成 28 年 9 月に「やんばる国立公園」となりました。さらに、国頭村では、世界自然遺産への登録に向けた取組みを推進しています。

国頭村に暮らす人びとは、森林、海、川の豊かな自然環境と共生しながら、農業や林業、漁業といった一次産業を営み、そのなかで、固有の文化や風習を世代にわたって継承しています。

さらに、国頭村は、スポーツ振興にも力を入れ、施設の整備やスポーツ合宿の誘致にも取り組み、国頭村の魅力をアピールしています。

国は、「観光立国の実現」を国家戦略として位置づけ、国内全体で積極的な観光政策を展開しています。沖縄県も国内有数の観光地として、毎年多くの観光客を国内外から引きつけています。沖縄県を訪れる観光客のリピーター率も高まっていますが、観光のかたちとしては、団体旅行から個人旅行へと多様化が進んでいます。

このように観光振興の新しい流れがあるなかで、国頭村には、空港からの距離や交通アクセスの面や宿泊施設の整備等の課題もあります。また、豊かな自然を持続的に活用するためには、自然環境との共生を図りながら観光振興を進めるという大きな課題もあります。

そのようななかで、国頭村にふさわしいかたちで、観光振興を図るためには、「国頭にふさわしい観光」、「国頭らしい観光」の理念をしっかりと示し、これを村民一人ひとりが認識して、村全体で取り組んでいくことが重要です。

そこで、本計画は、「国頭らしい観光」の基本理念を

命・癒し・健康をコアとする「くんじゃんツーリズム」の実現

とし、この基本理念に対応する要素を、【自然環境】【産業・歴史文化】【スポーツ】という3本の柱として、観光振興の基本方針を

【自然環境】【産業・歴史文化】【スポーツ】という3本の柱を堅固なものとするとともに、3つの柱の相乗効果を高めるための観光基盤の整備を推進する

とします。

本計画は、「くんじゃんツーリズム」実現のための基本計画です。本計画は、今後 10 年間という計画期間を設定しており、村が観光振興をめぐる今後推進するさまざまな施策の基礎として策定するものです。

2. 「国頭村観光振興基本計画検討委員会」の組織

検討委員会は、地方自治・地域主権の立場から国頭村の役場組織を横断するとともに、多様な関係者の意見を反映させるために、国頭村役場関係部局（企画商工観光課・経済課・建設課）、農業委員会、JA、森林組合、漁業協同組合、商工会、NPO、ホテル、観光協会準備室、環境省、学識経験者により組織されました。さらに、検討委員会の下部に、ワーキングを設け検討を行いました。

▼「国頭村観光振興基本計画」検討委員一覧（順不同）

	機関名・役職	氏 名
委員長	国頭村 副村長	小川 剛男
座長	東京工業大学 教授	桑子 敏雄
委員	名桜大学 教授	新垣 裕治
	国頭村 農業委員会 会長	宮城 弘
	JA おきなわ 国頭支店長	大城 道生
	国頭村 森林組合 代表理事 組合長	仲原 親一
	国頭村 漁業協同組合 組合長	大嶺 嘉昭
	国頭村 商工会 会長	金城 賜門
	国頭ツーリズム協会 代表理事	山川 雄二
	JAL プライベートリゾートオクマ 総支配人	加藤 大輔
	国頭村議会 議員	宮城 千賀子
	国頭村観光協会 準備室	崎濱 秀彰
	環境省 やんばる自然保護官事務所 上席自然保護官	木村 麻里子
	国頭村 企画商工観光課 課長	神山 徳夫
	国頭村 経済課 課長	大城 靖
	国頭村 建設課 課長	島袋 成年
	国頭村 世界自然遺産対策室	東江 賢次
	国頭村 教育課 学芸員	赤嶺 信哉

▼ワーキング（くんじゃんチャンプルー会）の構成

国頭村観光協会準備室・崎濱秀彰リーダー、国頭村森林組合・比嘉進、大石林山・金城克郎、国頭村商工会・知念寿樹、古堅なつこ、国頭村観光物産（株）兼国頭村商工会青年部長・田場聡、国頭漁業協同組合・大城力、JAL プライベートリゾートオクマ・大住紀章、森林教育普及員・渡口直樹、国頭村地域おこし協力隊・東建、商工会女子・堀江志麻、やんばる学びの森・大城雄聖、村内女子会・新垣ゆう、大城雅美、仲本いつみ、国頭村役場・前田浩也、平良政幸

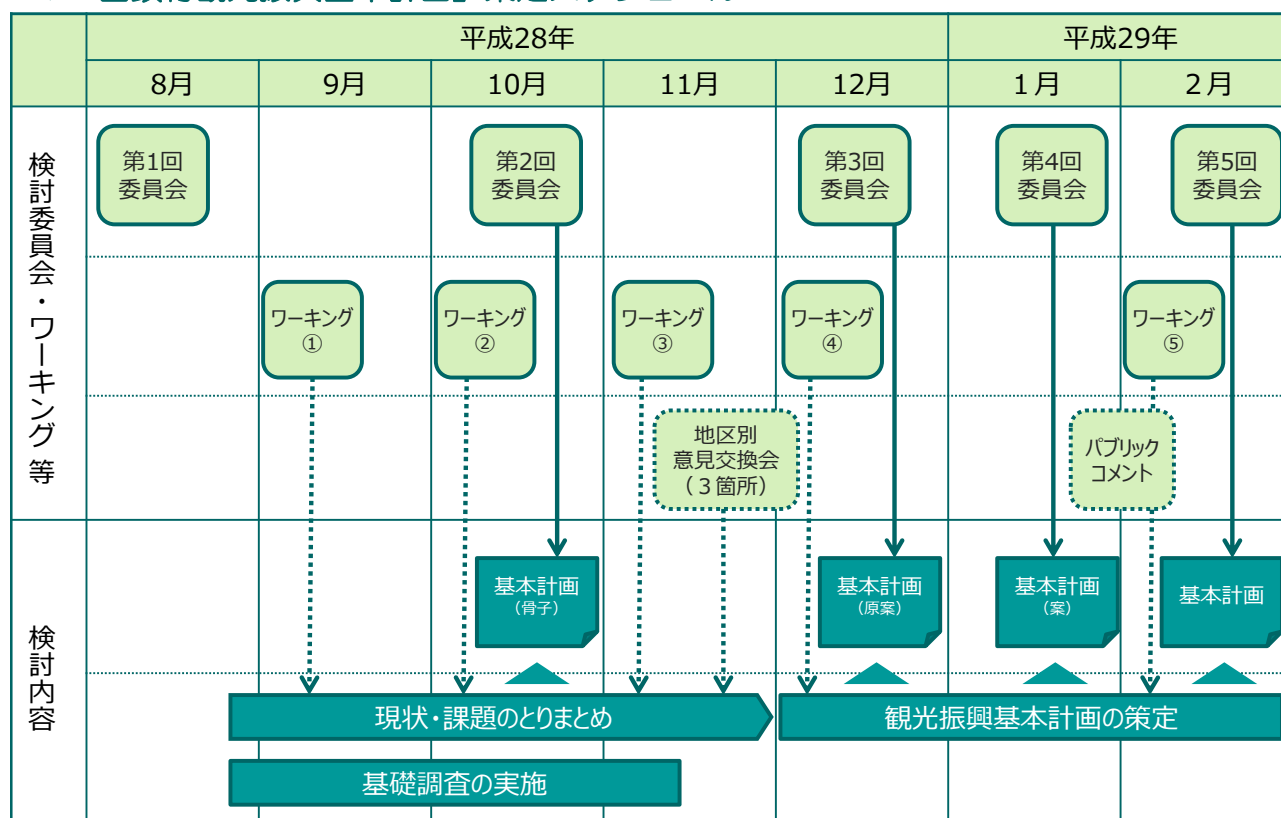
3. 「国頭村観光振興基本計画」策定の手順

国頭村観光振興基本計画の策定にあたっては、5回の検討委員会と5回のワーキング、住民意見交換会における検討を実施しました。

第1回及び2回の検討委員会（平成28年8月5日、平成28年10月20日）での議論を経た「観光振興基本計画 骨子」について、検討委員会主催の住民意見交換会を開催し（平成28年11月23日辺土名地区、平成28年11月29日西部地区、平成28年12月1日東部地区）しました。

その後、第3回検討委員会（平成28年12月21日）および第4回検討委員会（平成29年1月13日）を経て「観光振興基本計画（素案）」を策定し、パブリックコメントを行い、第5回検討委員会（平成29年2月22日）で最終的な「国頭村観光振興基本計画」を決定しました。

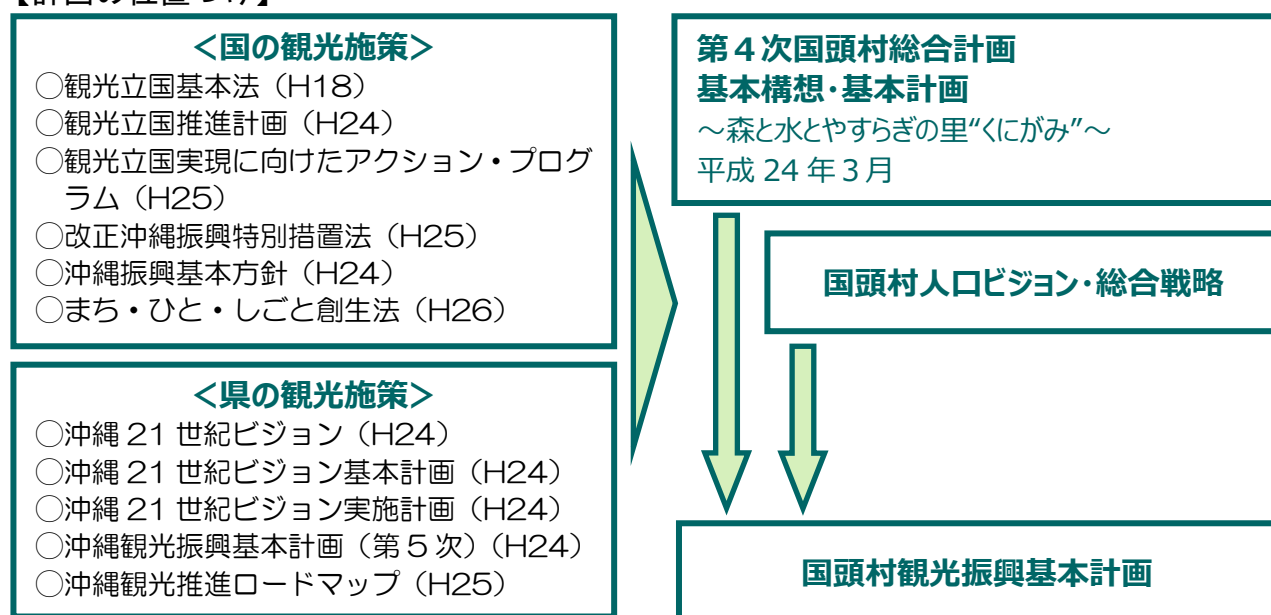
▼「国頭村観光振興基本計画」策定スケジュール



4. 「国頭村観光振興基本計画」の位置づけ

本計画は、上位計画である「第4次国頭村総合計画」の目標を達成するための柱としている「観光リゾートの振興」の具体化や、「基本目標1：国頭村にしかない自然資源を活用したしごとをつくる」を実現するための計画です。

【計画の位置づけ】



5. 計画期間

新たな国頭村観光振興基本計画の計画期間は、長期的な展望を持って観光振興を推進するために、平成 38 年度までの 10 年間とします。

一方で、今後も様々な外部環境の変化が見込まれることから、長期的な目標設定と、短期的な目標設定の長所を両立するため4つ段階（前期、中期、後期、見直し期間）を設定し、段階毎に見直しを行いながら進行することを想定しています。

H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
計画 策定	【前期】 ⇒計画の初動期として、 今後の施策展開の 基礎となる取組みを実施			【中期】 ⇒前期での基礎を受け、 様々な取組みを積極的に展開			【後期】 ⇒最終期間として取組みを展開 取組み全体に対する評価・検 証も実施			見直し 期間

第1章 〈命・癒し・健康〉をコアとした

国頭村の地域振興政策の概要

1.1 既存の上位計画・関連計画

(1) 第4次国頭村総合計画 基本構想・基本計画（平成24年）

国頭村は、村の将来像を「森と水とやすらぎの里“くにがみ”」としています。
観光振興については、「むらづくりの基本目標」の中で以下のように設定しています。

基本目標：自然を愛し活かした、豊かで活力あるむらづくり

○観光・リゾートの振興

※第4次国頭村総合計画 基本構想・基本計画 P.58 より

■基本構想／施策の方針

国頭村には、豊かな自然資源や文化財、史跡、伝統芸能など有形・無形の資源が多く存在しており、観光リゾートに関して大きなポテンシャルを有しています。ノグチゲラ、ヤンバルクイナ、ヤンバルテナガコガネ、タナガークグムの植物群落等の貴重な動植物の宝庫であり、村全域が観光リゾートに資する空間であるといえます。

豊かな自然に加えて、比地大滝キャンプ場、森林公園、やんばる学びの森、くいなエコ・スポレク公園等が整備されており、スポーツレクリエーションの場としての機能強化も図られています。しかしながら、観光客は素通り型の観光となっているのが実情です。

このため、恵まれた自然資源等を保全しながら活用を図り、農林水産業と連携した、持続可能な滞在型観光・リゾートの振興を図ります。

既存のスポーツレクリエーション施設を活用したエコツーリズムの展開、修学旅行生を民間世帯が受け入れる民泊事業などを今後も推進し、交流人口の増加を図ります。また、きめ細かい観光案内を行う、観光案内人の育成をさらに進めていき、観光・リゾート産業のソフト面の充実を図ります。

また、特産品開発や民泊受け入れなどの観光と絡めた6次産業に向けた施策の展開について検討を進めていきます。

【現状と課題】

※第4次国頭村総合計画 基本構想・基本計画 P.58 より

- やんばるの地域の魅力を活かし、国頭村を含むやんばる地域の情報を広域的に発信するための検討委員会を発足しています。
- NPO 法人国頭ツーリズム協会との連携で観光資源プログラムやエコツーリズムの展開を実施し、豊かな森林資源を中心にガイド人材育成や環境体験学習等を行っています。
- 物産センターに観光案内人を配置していますが、総合的な観光案内人の人材育成が必要とされています。
- SACO 事業と北部振興事業等により、森林を舞台とした観光拠点となる環境教育センター「やんばる学びの森」を整備しましたが、施設整備後における良好な施設運営が望まれ、安定した誘客の活動が必要とされています。
- 本村には、辺戸岬や大石林山、環境教育センター「やんばる学びの森」などの観光施設が整備されており、多くの観光客が訪れていますが、本村に滞在する観光客は少ない状況にあります。
- 国頭村の観光情報発信のため、ガイドブックの作成や情報サイトの整備、ポスター製作、ロゴ開発、多国語観光案内板の整備等を行っていますが、行政主導で実施しているため、民間活力を利用した活動を拡充する必要があります。
- プロ野球をはじめ県外から大学、高校野球のキャンプ地として定着してきております。

【施策の展開】

※第4次国頭村総合計画 基本構想・基本計画 P.58 より

①地域資源の保全及び活用

- ・エコツーリズムの展開など、本村の持つ地域資源を活かした誘客活動を推進します。
- ・本村の持つ地域資源の情報を発信し、観光客や周遊客の増加を推進するとともに、ユビキタス※構想の活用により、更なる情報の発信に取り組めます。
- ・自然環境や歴史文化など本村の持つ地域資源を説明することのできる総合的な観光案内人の人材育成に努めます。
- ・本村の持つ恵まれた自然環境を活かし、第一次・第二次・第三次産業と連携した第6次産業化の展開を図り、新たな雇用の場の創出に取り組めます。
- ・ヤンバルクイナなどの貴重な天然記念物が良好に生息できる保護活動のイベント化を通じて、環境学習や生涯学習を通じ、国頭村をPRする機会を創出します。
- ・国頭村の良好な自然景観は、観光振興の促進に大きな役割を担うことから、良好な景観の保全ならびに形成に努めます。

※ユビキタス：何時でも何処でも意識せずに、情報通信技術を利用できること

②滞在・体験型観光地の形成

- ・くにがみ村交流推進協議会と連携し、修学旅行の受入や民泊が可能な世帯の増加を推進するとともに、地域伝統文化芸能と絡めた体験学習に取り組めます。
- ・本村を訪れる観光客が滞在できるよう新たな観光拠点の形成や地域との交流を推進し、着地型観光の形成、長期滞在型保養観光地の形成を推進します。

③地域経済への波及

- ・北部圏域の市町村と連携し、「やんばる風景花街道事業」による新しい観光街道の創出を目指すとともに、北部の観光振興と地域の活性化に努めます。
- ・本村の地域資源を活かし、特産品の開発や民泊など地場産業との連携を強化します。
- ・本村の観光資源情報発信のため、ガイドブック作成や観光情報発信等を行っています。今後は、更なる交流人口の増加を目指すため、関係機関と連携したPR活動や観光施設等への案内板（サイン）の整備に努めます。また、村の統一ロゴマークを開発し、観光PR戦力として取り組めます。
- ・地域全体への波及効果が得られる経済の循環システム形成を図るため、観光協会等の組織づくりを検討します。
- ・村内の各港間を利用した港立ち寄り観光による滞在型観光を推進します。
- ・プロ野球をはじめとするスポーツ合宿が定着してきており、今後も引き続き合宿誘致に向けた施策を展開します。

（２）国頭村 まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 28 年 3 月）

国頭村人口ビジョンで掲げた長期の人口目標を達成するために、総合戦略の目標年度を 2019 年（平成 31 年度）とし、計画期間である 5 年間の取組みの目標として 4 つの基本目標を定めています。

観光振興については、基本目標 1 の中で、以下のように定めています。

○基本目標 1：国頭村にしかない自然資源を活用したしごとをつくる

国頭村の貴重で豊かな自然環境の保全に努めつつ、自然環境や歴史文化に優れた地域資源を活かし、国立公園への指定、世界自然遺産登録を見据えて、エコツーリズム、体験・滞在型観光を推進し、観光産業の振興を図り、人材育成と雇用の場を確保・創出します。

村の基幹産業である農業と、県内他の地域に無い誇れる林業、4 漁港が立地し環境に恵まれた漁業、これら一次産業の持続的な振興を図るため、担い手の育成・確保や 6 次産業化への取組みによる付加価値の高い、自立した農林水産業の振興を図ります。

情報通信技術と国頭村の自然に恵まれた居住環境を生かし、在宅勤務やSOHOなどのテレワークの導入促進を検討します。

基本目標 1

国頭村にしかない自然資源を活用したしごとをつくる

数値目標	基準値（H26）	目標値（5 年間で）
新規就業者数（農業）	0 人	8 人※
新規就業者数（林業）	2 人	10 人
木工職人の育成と工房開設	0 人	3 人
新規就業者数（水産業）	2 人	10 人
観光関連団体の設立	—	2 人
新規起業数	1 人	3 人
辺土名大通りの空き店舗解消	—	3 件
宿泊施設の誘致	—	1 件

※：現時点での目標値（毎年更新を予定）

1.2 国立公園・世界自然遺産指定への対応

(1) 国頭村の森林保全と利活用の歴史

やんばるの森には、多様性に富んだ自然が残され、多くの野生動植物が生息・生育しています。古くから村民の生活だけでなく、沖縄県全体の生活や経済を支え、暮らしや産業の振興、文化の発展に寄与してきた重要な森です。

琉球国から続く沖縄の歴史の中で、時代ごとの社会のニーズや要求に応じて、建築、土木、産業、生活用材や薪炭材等の供給拠点として常に木が伐り出されてきました。

琉球王国時代には、王府や士族、寺社仏閣の建築資材をはじめ、生活資材や燃料等に多くの木材が必要であり、木材需要の増加、食糧増産のための開墾等によって多くの森林が伐採され、森林資源は減少し荒廃しました。この時代に初めて、蔡温の指導による植林や森林管理が行われ、森林資源の回復につながり、その後は、地域の住民がこの森林資源を大切に管理し、利活用してきました。

明治期や昭和前期、戦後の復興期を経て、伐採による森林資源の荒廃時期が度々訪れましたが、その度に森林資源回復への努力をしてきました。国頭村では、昔から林業が多く地域住民の生活を支えてきました。地域住民が、集落ごとの様々な取り決めなどにより、森林の保全と利活用のバランスをとりながら、現代の世界的に価値のある豊かな自然環境を保ってきました。

やんばるの森は今も地域の暮らしの源となり、生活を支える資源であるとともに、観光の分野においても、国頭村を訪れた方に、遊び・体験、学び、癒しを与える重要な観光資源の一つとなっています。



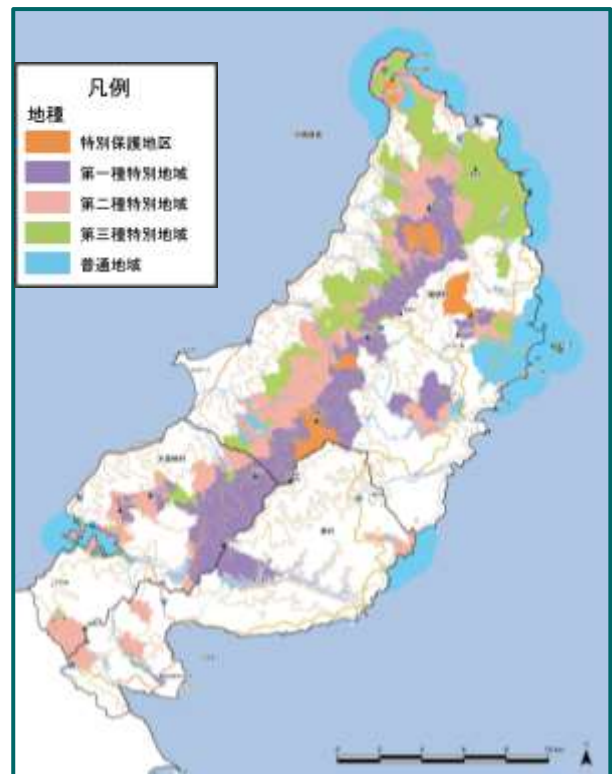
(2)「やんばる国立公園」への指定と世界自然遺産登録に向けた動き

①「やんばる国立公園」への指定

国土の5%を占める国立公園は、森林、湿地、海浜、サンゴ礁などの日本の豊かな自然や野生動植物を保護し、将来に伝えていくとともに、訪れる人々に、自然を体験し、楽しみ、より深く知るための機会を提供しています。日本の美しい自然の代表として、北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで指定されており、年間3億人以上が利用しています。

やんばる国立公園は、国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がり、琉球列島の形成過程を反映して形成された島々の地史を背景にヤンバルクイナなど多種多様な固有動植物及び希少動植物が生息・生育し、石灰岩の海食崖やカルスト地形、マングローブ林など多様な自然環境を有していることが評価され、平成28年9月15日に、国頭村、大宜味村、東村にまたがる陸域や海域が33番目の国立公園として指定されました。

やんばる国立公園には、国内最大級の亜熱帯照葉樹林が広がっています。その森林にはヤンバルクイナやノグチゲラなど、ここにしかない貴重な生き物が数多く生息しています。



▲国立公園内の指定区分図

②世界自然遺産登録に向けた動き

世界遺産は、将来の世代に引き継いでいく人類共通の宝ものです。世界自然遺産に登録されるためには、自然景観、地形・地質、生態系、生物多様性のいずれかにおいて、世界レベルで素晴らしい価値があると認められる必要があります。やんばるを含む4地域（奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島）は、生態系や生物多様性の基準に当てはまると考えられます。

<やんばるの世界自然遺産としての価値>

生態系： 生き物の進化の 過程を示す	世界遺産推薦候補地の4地域を含む琉球諸島は、海水準の変化等によって、大陸や周辺の陸域とつながったり離れたたりしてきました。その影響により、限られた地域にのみ生き残った種（遺存固有種）が生息・生育しています。このような種として、ケナガネズミやオキナワトゲネズミなどが挙げられます。
生物多様性： 国際的に重要な 生き物の生息地	やんばる地域には、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、イボイモリ、クロイワトカゲモドキ、ヤンバルテナガコガネ、オキナワセッコクなどの国際的に重要な希少種が生息・生育しており、生物多様性の保全上重要な地域と考えられます。

1.3 〈命・癒し・健康〉を基本理念とする観光振興基本計画の策定

「第4次国頭村総合計画 基本構想・基本計画（平成24年）」において、「森と水とやすらぎの里“くにがみ”」という将来像が示されているとおり、国頭村が有する豊かな自然は貴重な観光資源です。

やんばるの森は、地域に暮らす人、そして多種多様な動植物が息づく「命」の源であり、これまで大切に保全されてきました。観光の分野においても、自然環境の保全と利活用のバランスを重視した取組みを推進してきたことで、多くの観光客が国頭村にしかない豊かな自然がもたらす「癒し」を求めて訪れています。

村内の山や森、海、川といった豊かな自然を散策することは、そこに息づく「命」や「癒し」を感じるとともに、多くの学びをもたらし、「健康」を増進する効果も期待されます。近年では村内の施設や受入環境が充実したことで、スポーツツーリズムの取組みが盛んになっており、「健康」というキーワードも、村内観光の重要な視点の一つと考えられます。

今後、国頭村として観光振興に向けた取組みを推進し、その先にある地域の活性化を実現していくためには、国頭村の観光の核となる「命」「癒し」「健康」の3つのキーワードを村内全体で共有し、「国頭らしい観光＝くんじゃんツーリズム※」の実現に一丸となって取組むため、以下の【基本理念】に基づく、観光振興基本計画を策定しました。

国頭村の観光振興に向けた【基本理念】

命・癒し・健康 をコアとする
「くんじゃんツーリズム」の 実現

※「くんじゃん」は国頭を指し、村史のタイトルとしても使用されている親しみある言葉です。今後、国頭村全体で観光の振興を目指すにあたり、この親しみある言葉を用いて、「国頭らしい観光」を「くんじゃんツーリズム」と名付け、取組みを推進します。

第2章 国頭村の観光のこれまでの取組みと課題

2.1 〈命・癒し・健康〉をコアとする観光振興の3要素

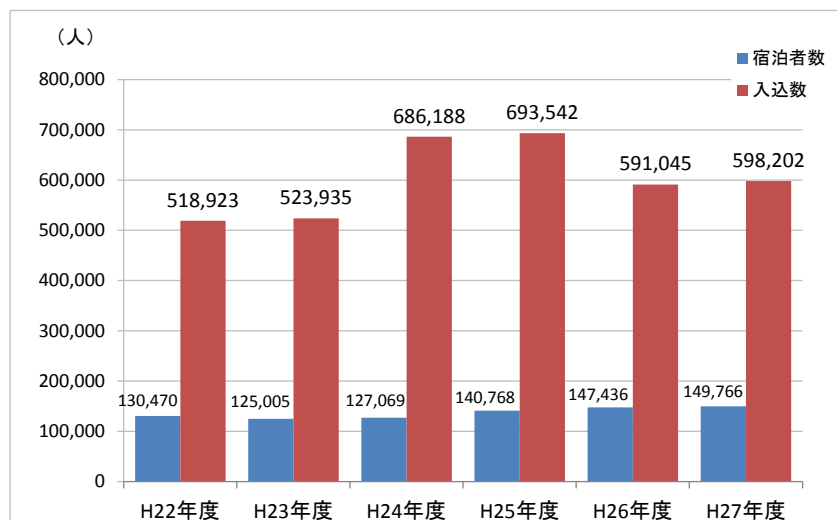
国頭村は、沖縄本島の最北端に位置し、村面積の84%を森林が占めるなど、緑深い『やんばる（山原）』として県民に知られており、やんばるの森を中心とした自然環境の他、食や生活文化の面でも古く伝統のあるものが残されている、卓越した観光資源を有する地域です。

村内の主な観光資源を整理すると、国頭村が誇る豊かな「自然・景観」の他、その自然に根付いた昔からの暮らしや生活が残る「文化や街並み」、充実した施設を背景として盛り上がりを見せる「スポーツ」関連の施設やイベントも村内の重要な観光資源となっています。

〈命・癒し・健康〉を核とした観光振興を図るためには、村内の受入体制および機運を高めるとともに、これらの重要な観光資源である【①自然環境】、【②産業・歴史文化】、【③スポーツ】の3つの要素を最大限に活用し、それぞれの要素が連携した国頭村ならではのツーリズムの推進が重要となります。

【参考】 国頭村内の観光入込客数の推移

◇村内の観光の現状としては、国頭村の年間入込客数は、約60～70万人の水準で推移しており、そのうち、宿泊者数は平成27年度時点で約15万人となっています。



▲国頭村内の観光施設等への年間入込客数の推移（H22～H27）

出典：村収集資料を基に作成

▼国頭村内の主な観光資源

自然	【保全を優先すべき資源】 与那覇岳、安田ヶ島、伊部岳、フェンチチ山、比地川、オクマビーチ、辺土名ビーチ、安波のサキシマスオウノキ、奥間川、奥川、辺土名川、伊江川、安波川、安田川、与那川 【景観スポット・資源】 比地大滝、茅打ちバンタ、辺戸岬、辺野喜ダム、普久川ダム、安波ダム、ヤンバルクイナ展望台
	【体験・学習施設】 大石林山、やんばる学びの森、国頭村森林公園、ヤンバルクイナ観察小屋、やんばる野生生物保護センター ウフギー自然館、辺戸蔡温松並木保全公園、安波ヒラバンタ公園、鏡地シマナー公園、比地大滝キャンプ場、ヤンバルクイナ生態展示学習施設「クイナの森」
	【体験内容（面的・統合的な内容）】 森林散策、森林セラピー、星空観察、比地大滝トレッキング、ヤンバルクイナ観察ツアー、フィッシング、カヌー、シュノーケリング、ダイビング、川遊び、ホテル観察、イノー観察、定置網漁体験、バードウォッチング、ナイトハイク
歴史 文化	【遺産・施設等】 安須森御嶽、義本王の墓、国頭さばくいの地碑、かぎやで風節歌碑、宇佐浜遺跡、奥民具資料館、奥間鍛冶屋発祥の地碑、国道 58 号起点の碑、やんばる森のおもちゃ美術館
	【食】 からぎ茶、クニガミドーナツ、ハイケイ、猪豚、くんじゃんナントウ、パインアップル、マンゴー、パッションフルーツ、緑茶シロップ・黒糖緑茶シロップ「SARYU-茶琉」
	【行催事】 安田のシヌグ、各区の豊年祭、奥間大綱引き、宜名真フーヌイユまつり、恋し鏡地まつり
	【体験内容（面的・統合的な内容）】 集落散策（与那区、比地区、奥区、宜名真区、辺戸区）、お茶摘み体験（奥区）
スポーツ	【スポーツ施設】 国頭村立総合体育館、かいぎんフィールド国頭、かいぎんスタジアム国頭、ふれあい広場、シーサイドテニスコート、くにがみ鏡地パークゴルフ場、くにがみ屋内運動場、投てき場、クロスカントリーコース、クラブハウス、ウエイトリフティング場、くいなパークゴルフ場
	【イベント・大会】 国頭トレイルランニング大会、ヤンバルクイナカップ沖縄県小学生駅伝競走大会、全国ふれあいパークゴルフ大会、ツール・ド・おきなわ、国頭村児童オリンピック大会
	【体験内容（面的・統合的な内容）】 スポーツキャンプの視察観光
産業 商業	【地域産業】 椿油の由来商品、置き炭、木工加工品、くんじゃん焼
	【交流拠点】 道の駅 ゆいゆい国頭、共同売店
その他	【祭・イベント】 奥ヤンバル鯉のぼり祭り、安波ダム・クイナまつり、国頭村まつり、国頭村産業まつり、国頭村文化福祉まつり、海開き

▼国頭村内の主な観光資源の配置

スポーツ	
番号	名称・場所
51	かいぞんフィールド国頭
52	かいぞんスタジアム国頭
53	ふれあい広場
54	シーサイドテニスコート
55	くしがみ緑地パークゴルフ場
56	くしがみ屋内運動場
57	投てき場
58	クロスカントリーコース
59	クラブハウス
60	ウェイトリフティング場
61	くしがみパークゴルフ場
62	国頭村立総合体育館



2.2 自然環境を活かした観光のこれまでの取り組みと課題

(1) これまでの取り組み【自然環境】

①やんばる型森林ツーリズムの振興

世界自然遺産登録を見据え、やんばるの森林において「自然環境の保全」と「森林利活用」の両立を図ることを目的として、森林ツーリズムの推進のための、「やんばる型森林ツーリズム推進全体構想」が検討されています。全体構想では、国頭村、大宜味村、東村の3村が、ワーキング会議により各村の森林ツーリズムのルール作りを行っており、平成30年度の運用を目指しています。

②沖縄県知事認定「保全利用協定」の動き

自然環境を保全し、持続可能な利活用を図っていくことは観光振興において重要なテーマとなっており、県では沖縄振興特別措置法に主要な施策として、「保全利用協定制度」に取り組んでいます。

保全利用協定制度とは、「エコツアー」に関わる事業者が、利用する自然環境の「保全」と「持続的な利用」を目的として、自主的に策定するルールを「保全利用協定」といい、その内容が適切であれば沖縄県知事が認定する制度です。

国頭村では、伊部岳地区（伊部岳登山道 オキナワウラジロガシルート）が認定の対象となっています。



▲協定地区の中心となる
オキナワウラジロガシ

③森林セラピーの取り組み

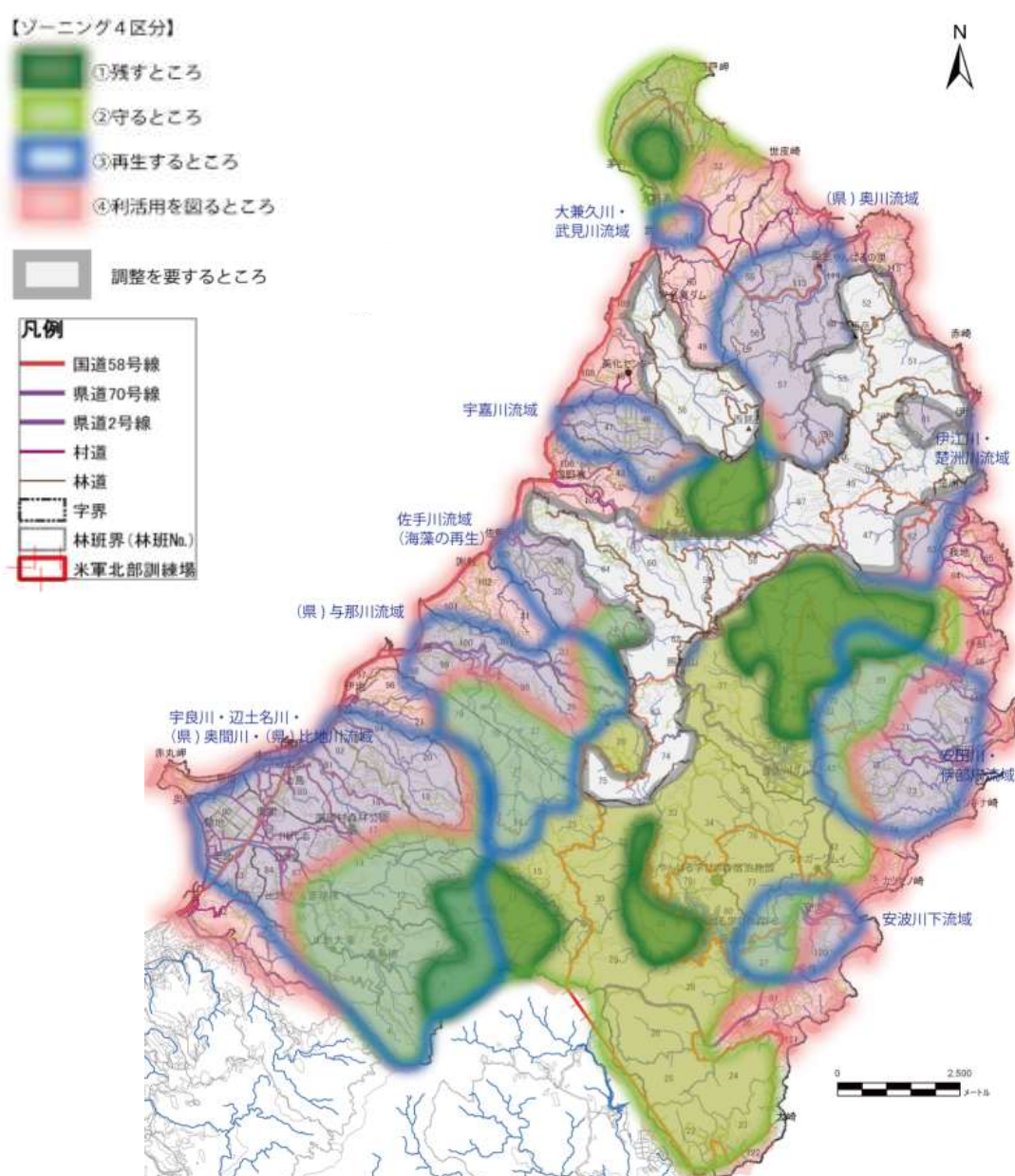
森林の持つ癒しやリラックス等の森林浴効果を十分に発揮し、健康維持増進を図る取り組みを総称して森林セラピーと呼びます。森林浴効果に関する医学的検証の結果、平成19年に県内で唯一、国頭村が森林セラピー基地として認定を受けました。恵まれた自然「やんばるの森」を活かした、森林セラピーロードを4コース（比地大滝遊歩道、国頭村森林公園、与那覇岳登山道、やんばる学びの森）設け、森林セラピーの活動に取り組んでいます。

平成24年度には、国頭村森林セラピー推進協議会が発足し、平成25年度からは森林セラピーガイドの養成に取り組み、国頭村森林セラピー協会が設立されました。村内では、講座を受けて「ぬちぐすいの森セラピーガイド」に認定されたガイドによる森林セラピーツアーが実施されています。

④国頭村森林地域ゾーニング計画（平成 23 年 3 月）

国頭村森林地域ゾーニング計画は、国頭村内の森林地域の利活用の歴史をふまえ、多くの固有種を育むやんばるの森特有の生物多様性や水源かん養機能、二酸化炭素吸収源等の公益的な機能をつねに考慮し、観光を含めた新たな森林業の創造による保全・利活用を行うために策定されたものです。

本計画では、持続可能な森林資源管理を実現するために、村内の森林地域を①残すところ、②守るところ、③再生するところ、④利活用を図るところの 4 区分に分け、今後の保全・利活用の方針を示しています。



▲国頭村森林ゾーニング計画図

(2) 自然環境を活かした観光に関する課題

◆貴重な森林等の環境保全と観光振興の両立

国頭村が誇る「豊かな自然環境」は、県外客からの評価が高く、村民からも今後は「自然豊かな観光地」を目指していくべきといった意見が多数寄せられています。この自然環境は、国頭村が有する貴重な観光資源であると同時に、村民の生活を支える重要な資源です。そのため、観光の振興、観光客の増加によって、「景観や自然環境への悪影響」を懸念する意見も寄せられています。

豊かな自然環境はこれまで大切に残されてきたものであり、今後の観光振興においても、持続的な発展が実現できるよう、「保全と利活用のバランス」に十分配慮した取り組みが求められます。そのためには、ルールや仕組みを構築するとともに、観光客数の調整や観光客への啓発も重要です。

◆国頭村だからこそできる環境共生型の観光

国頭村は森林だけでなく、周りを海に囲まれ美しい海洋資源も豊富に有している地域です。自然環境を活用した国頭村らしい観光を実現していくためには、森林ツーリズムや海洋ツーリズムの取り組みを推進し、魅力的な自然環境を最大限に活かすとともに、環境の保全や教育にも注力した、環境共生型観光の先進地としての意識を持ったさらなる取り組みの強化が必要です。

2.3 産業・歴史文化を活かした観光のこれまでの取り組みと課題

(1) これまでの取り組み【産業・歴史文化】

①農業と連携した観光プログラム（農業体験）

村内の農業と連携した観光プログラムとして「農業体験」が行われています。国頭村の温暖な気候を活かして村内で栽培されている、葉野菜や根菜を始め、パイン、マンゴー、シークワサー等の収穫体験とともに、国頭の土壌や気候を学習する機会となり、民泊宿泊者などの県外観光客に人気が高い体験メニューの一つです。年間を通して村内の畑や果樹園で開催されています。



▲農業体験の様子

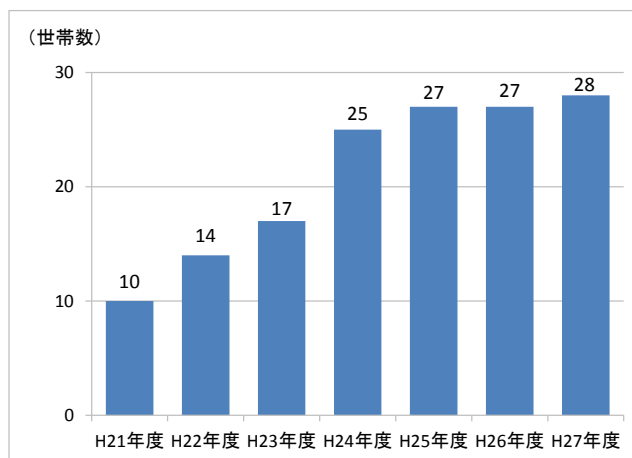
②グリーンツーリズムによる村連携（平成 20 年度 民泊受入事業）

国頭村に隣接する「東村」と「大宜味村」は、国頭村同様森林に覆われており、自然豊かな地域を形成しています。この隣接する2村と連携し、広域な地域として観光客を受け入れていくことを目指して、「やんばる交流推進連絡協議会」を立ち上げ、教育旅行のための農家民泊体験の受入れを行っています。

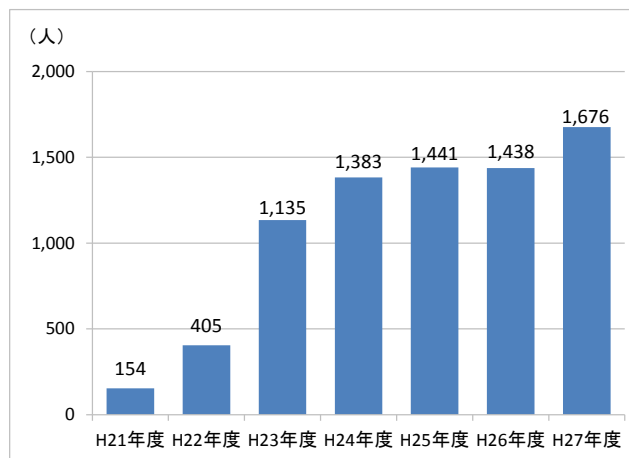
平成 20 年度の立ち上げ当初は、国頭村内の受入民泊世帯は 10 世帯、利用者数は 154 名という状況でしたが、平成 25 年度には、受入民泊世帯は 27 世帯、延べ利用者数は 1,441 名まで増加しており、村内の滞在宿泊施設の少なさを補い、地域の住民との交流を通じて地域をより深く知る機会の拡大に繋がっています。

3村連携型の体験プログラムやコミュニティビジネス、プロモーションを行うためのブランドネーム「ヤンパク」を立ち上げ、1次産業を軸とした広域連携を行っています。

▼年度別民泊受入世帯数



▼年度別受入実績人数（延べ人数）



③林業と連携した観光プログラム（クラフト体験・やんばる my 箸作り体験）

村内の林業と連携した観光プログラムの一つとして「クラフト体験」や「やんばる my 箸作り体験」が行われています。

「クラフト体験」は、やんばるの森が育む自然の素材を活用し、自然素材を生活に取り入れる楽しさを伝えることを目的としており、体験者はやんばるの森の木の実や枝、葉などを利用して、オリジナルストラップを作ることができ、やんばるの自然を楽しむ体験メニューの一つです。さらに、村内の木材を使用して作られたクラフト商品は、道の駅ゆいゆい国頭で販売されており、お土産品の一つとなっています。

「やんばる my 箸作り」は、端材の有効利用を通じて、日頃の生活で使用している使い捨て道具について振り返る機会の創出を目的としています。やんばるの森から切り出された木材の端材から自分の箸を作る、雨天でも実施可能な体験メニューとしてやんばる学びの森で実施されています。



▲やんばる my 箸作りの様子

④漁業と連携した観光プログラム（定置網体験）

村内の漁業と連携した観光プログラムの一つとして「定置網体験」が行われています。

この取り組みは、国頭村漁業協同組合と連携して開催しており、辺土名漁港を早朝に出発し、与那沖の定置網ポイントにて海人による漁を見学・体験します。寄港後は漁港のせりを見学し、獲れたて新鮮な海の幸を試食することができます。都会に住む観光客にとっては日常では体験できない海人の仕事や国頭の海の恵みを体感できる人気の体験メニューの一つです。

安全性を考慮し、天候が安定しない冬場を避けた3月～9月の期間で実施されています。



▲定置網体験の様子

⑤集落散策ガイドブックの作成（平成15年度 人材育成事業（集落ガイド等））

観光客を快く受入れるための試みとして、「国頭村地域人材育成事業」により集落散策ガイドブックの作成を行いました。これまでに、村内の9集落（浜、比地、奥間、鏡地、桃原、与那、宜名真、奥、楚洲）でガイドブックが作成されています。

初期は村内の3つの集落から人々が集まり、地域の魅力や国頭らしさを古老からの聞き取りや文献調査によって掘り起こし、住民自らが編集することで、手書きのイラストなど思いがこもった内容となっています。ガイドブックの作成によって自分たちの集落に対する自信が芽生え、他の人にも伝えたい気持ちが強くなり、それが行動として現れ、いくつかの集落では自分たちでお客様を有料で迎える「集落散策ガイドツアー」を実施するほどに広がっています。

集落散策ツアーを実施している集落は現在3カ所あり、各集落の住民のガイドでお客様を案内しています。集落内の古民家で三味線を披露したり、名産品である茶摘み体験をセットにしたり、住民自らジンブン（知恵）を出し合って、案内することを楽しみながらおもてなしが図られており、地域の活力になっています。

▼集落散策ガイドブック・集落でのガイドツアーの様子



⑥祖国復帰記念行事

平成24年に「祖国復帰40周年記念事業」が行われました。この事業は、北緯27度線を挟む国頭村と鹿児島県与論町の合同で実施され、沖縄県と鹿児島県の両県にまたがり非常に注目度が高い取組みとなりました。

平成34年には、「祖国復帰50周年記念事業」の開催が予定されています。

▶「祖国復帰40周年記念事業」の様子



⑦辺土名大通り整備事業

辺土名大通りは、国頭村唯一の商店街がある大通りで、様々な商業店舗が立ち並び、昔からにぎわいのある村内の中心的な地域でしたが、時代の変化により空き店舗が増え、にぎわいが低下していました。

そこで、この地域を盛り上げるため、国頭村役場の安全安心な道路づくり「みちがえるまちづくりワークショップ」をきっかけに、平成 26 年 4 月に「辺土名大通り会」が結成され、道路整備の進捗とともに、美化活動の取り組みや辺土名大通りまつり等のイベントが開催されることで、国頭村の中心地としてのにぎわいの増加につながっています。

昔から生活に欠かすことができない辺土名大通りは、利用者への安全確保および商店街の活性化を図るために平成 23 年度から工事に着手し、平成 28 年度に整備が完了しました。さらに、辺土名大通り会事務所やコワーキングスペースが開設され、今後も商店街の活性化、にぎわいの創出が期待されています。



▲整備後の辺土名大通りの様子
(辺土名大通りまつり)



▲辺土名大通り会事務所
(イルミネーション)

⑧「特産品開発」の取組み

a) クニガミドーナツの取組み

農作物の規格外品や余剰品は、通常はほとんどが廃棄処分となってしまいます。そこで廃棄処分対象となる農作物を地元加工事業者（域内の菓子店等）と連携し、規格外品の買い上げから商品の製造・販売までを村内で行う取組みを実施しています。

「クニガミドーナツ」として誕生した新たな洋菓子は完全無添加で6種類（プレーン、プレーンタンカングレース、プレーンパイナップルグレース、チョコ、チョコタンカングレース、チョコパイナップルグレース）の味が楽しめ、道の駅でのおみやげ品として販売される他、現在では小学校の給食にも上るようになり、地域の特産品として活用されています。



▲クニガミドーナツ

b) イノブタの取組み（平成 22 年度 イノブタの商品化、ブランド化、PR 事業）

畜産家や漁業家とも連携、飲食店で供される新メニューも生み出されています。特に、地域に生息する「イノシシ」と、「豚」を交配させた「猪豚（いのぶた）」は、栄養学的にも高い評価が認められると共に、味深く、生産量が少ないながらも「ここでしか食べられない名物食材」として認知が深まりつつあり、遠く那覇から、「名物 国頭イノブタ肉そば」を食べに来訪する方々も増えています。

道の駅内のレストランでは「イノブタ肉そば」が売上 No.1 の人気メニューとなっており、1店舗で年間 5000 食以上が食されるようになりました。イノブタ肉を取り扱う飲食店も徐々に増えつつあり、通常の豚に比べ、肥育に時間がかかり、且つ大きくは育たないデメリットの多い家畜ではありますが、美味しいという評判と、わざわざここへ食べに来てくれるお客様が増え続けていることを受け、畜産家たちも増産に向けて熱意が高まっている状況です。



▲イノブタ肉そば

⑨地域の交流拠点となる共同店

国頭村内には、浜、鏡地、奥間、桃原、伊地、与那、辺野喜、宇嘉、宜名真、辺戸、奥、楚洲、安田、伊部、安波と集落ごとに「共同店」が15店舗営業しており、村民の買い物拠点として機能しています。国頭村は沖縄県内における「共同店」発祥地であり、地域のコミュニティにより継承されてきた100年以上の歴史を誇る店舗もあります。

一度は沖縄県内に広がっていった共同店ですが、現在では北部地域以外の地域ではあまり見ることができなくなっています。国頭村の共同店は、買い物だけでなく、地域の交流拠点として大切に運営されており、現在では、村の文化を感じながら地域の人と交流し、特産品等が購入できる観光の拠点としての活用が期待されています。



▲奥 共同店の様子

⑩地域の拠点を担う「道の駅」の整備

国頭村の観光および物産の拠点として、平成11年に「道の駅 ゆいゆい国頭」が開業しました。施設内には、販売、休憩、展示、飲食等の機能を有している他、村内の観光情報を入手できる「観光案内所」が併設されており、国頭村だけでなく、やんばる3村全体の情報発信基地を担っています。

年間14万人を超える訪問があるこの道の駅は、国頭村の観光・物産を支え、地域の活性化と将来のふるさと作りに貢献する施設です。施設内の店舗では、地域の特産品である「からぎ茶」や、日本一早い新茶といわれる「奥みどり」、「やんばる薬膳華みそ」等が購入でき、農産物直売所である「ふるさと市」では、村内の新鮮な野菜が販売されています。さらに、クニガミドーナツやイノブタ料理といった国頭村の食が満喫できる、地域の物産の拠点としても機能しています。

「道の駅 ゆいゆい国頭」では、駐車場不足により観光客が利用できていない状況を指摘する声がありましたが、平成28年7月に既存施設の隣に「やんばる3村観光連携拠点施設」が供用され、新たに5店舗の開業、駐車場の大幅拡張整備（大型バス6台を含む計98台分の駐車場整備により駐車台数が62台から2.5倍に増加）が行われたことで、受入インフラとして、地域への波及効果の拡大が期待されています。



▲やんばる3村観光連携拠点の様子

(2) 産業・歴史文化を活かした観光の課題

◆主要な一次産業と連携した観光振興

国頭村では、昔から豊かな自然環境を活用した農業や林業、漁業といった一次産業が伝統的に営まれており、観光分野においても体験プログラムとして、連携した取り組みが行われてきました。沖縄県を訪れる観光客のリピート率が高まる中で、県内外の観光客に選ばれる観光地となるためには、国頭村の山、森、畑、海の大切さを学び、満喫できる国頭村らしい観光プログラムの充実を図ることが重要です。一次産業と連携した観光事業を展開することで、観光の振興だけでなく、地域産業の活性化にもつながることが期待されます。

◆食の充実・お土産品の開発

ここ数年での観光客の増加を実感する意見が多い中で、観光客の増加による経済効果を感じている村内の観光関連事業者は3割程度と低い状況にあり、村内消費の拡大、外貨獲得といった好循環には至っていない状況にあると考えられます。

村内の「農産物」は県内観光客の評価が比較的高く、村内消費促進のための魅力の一つとなり得る可能性があります。また、国頭村にはハイケイ※やフーヌイユ等の昔からの食文化があります。村内を訪れる観光客の消費行動の促進に向け、これらの魅力を最大限に活用し、国頭村らしい食の充実、お土産品の開発等の取り組みが必要です。

※ハイケイとは、卵を産み終わった鶏（廃鶏）のことで、通常はスープのだしに使用されることが多いですが、国頭村ではこのハイケイを炭火焼きにして食べる習慣があり、村内の食文化の一つとして継承されています。

◆国頭村の歴史文化資源を活かした観光プログラムの提供

国頭村は、「自然環境」という特有の観光資源を有しています。しかし、観光の現状は、立ち寄り先の偏りやドライブ目的で素通りする観光客の存在があることも事実です。

村内には「自然環境」の他にも、「歴史文化資源」など、魅力ある資源が点在しています。周遊散策といった既存のプログラムに加え、地域の魅力的な資源を活かした観光プログラムを提供することで、滞在時間の延長や村内周遊を促す観光の仕組みづくりが必要であると考えられます。

2.4 スポーツツーリズムの推進に向けたこれまでの取組みと課題

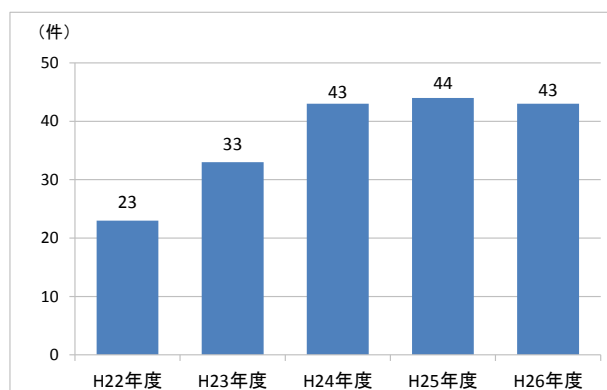
(1) これまでの取組み（スポーツ）

① スポーツツーリズムへの挑戦（平成 19 年度～ スポーツ合宿誘致プロジェクト）

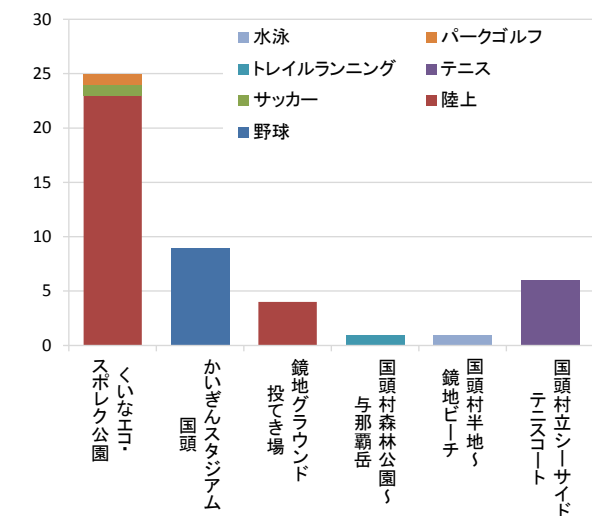
国頭村は、沖縄県内でも有数のスポーツコンベンションの受入地域となっており、多くのプロスポーツ選手やトップアスリートが合宿やキャンプ等を実施しています。平成 26 年度には、延べ 2,835 名が合宿やキャンプ、大会等に参加するために村内を訪れています。

▼村内のスポーツコンベンションの状況

○国頭村キャンプ合宿件数



○会場ごとの種目内訳



出典：スポーツコンベンション開催実施一覧【平成 26 年度】沖縄県

▼スポーツキャンプの受入れ状況

施設名	コンベンション名
かいぎんスタジアム国頭（くにがみ球場）	北海道日本ハムファイターズ 秋季キャンプ、北海道日本ハムファイターズ（2 軍） 春季キャンプ、日立製作所 他 5 団体
かいぎんフィールド国頭（国頭陸上競技場）	ホクレン女子陸上部、日立物流グループ陸上部、豊田自動機械女子陸上部、DeNA ランニングクラブ 他 15 団体
鏡地グラウンド投てき場	順天堂大学陸上競技部（投てき）、福岡大学陸上競技部（投てきブロック）、岐阜経済大学陸上競技部（跳躍・投てき）
国頭村立シーサイドテニスコート	オクチョンソフトテニス部、社会人テニス合宿、福知山成美高校女子ソフトテニス部、横浜インターナショナルテニスコミュニティー 等
国頭村半地～鏡地ビーチ	園田学園女子大学
国頭村森林公園～与那覇岳	国頭トレイルランニング

平成 17 年度の「プロ野球の春季キャンプの受入れ」をきっかけに始まったこの取組みは、沖縄ならではの温暖な気候と、国頭村ならではの自然豊かな環境を背景に、村内の運動施設を活用した合宿誘致プロジェクトとして、10 年以上続けられています。

取組み当初の 15 チーム、延べ 4,696 人であった合宿訪問者数は、平成 25 年度には 41 チーム、延べ 9,550 人、村内への経済効果 1 億 1,084 万 6 千円まで増加し、チーム数、宿泊利用者数、経済効果は2倍以上に拡大しています。

合宿先として選ばれる背景には、野球場、陸上競技場の芝の管理や要望に対する迅速な対応、宿泊体制の充実、道の駅での合宿チーム商品割引制度、村内を走る際の協力依頼看板の設置といった、村内全体でスポーツ合宿を受け入れ、歓迎する体制が構築できたことが、村内を利用するチームに伝わったことがあると考えられます。

スポーツ合宿は、長期間に渡る選手たちの滞在に繋がり、観光の直接効果だけでなく、地域経済への波及効果も大きい事業です。誘致開始以降、スポーツ交流人口の増加に伴い、競技場周辺に民宿が2箇所、コンビニエンスストアが1箇所、飲食店が1箇所、お弁当を販売する店舗が1箇所、居酒屋が1箇所増えました。このような村内の交流人口拡大に向けた取組みが、地域の雇用の場を創出し、地域住民の活力に繋がっています。

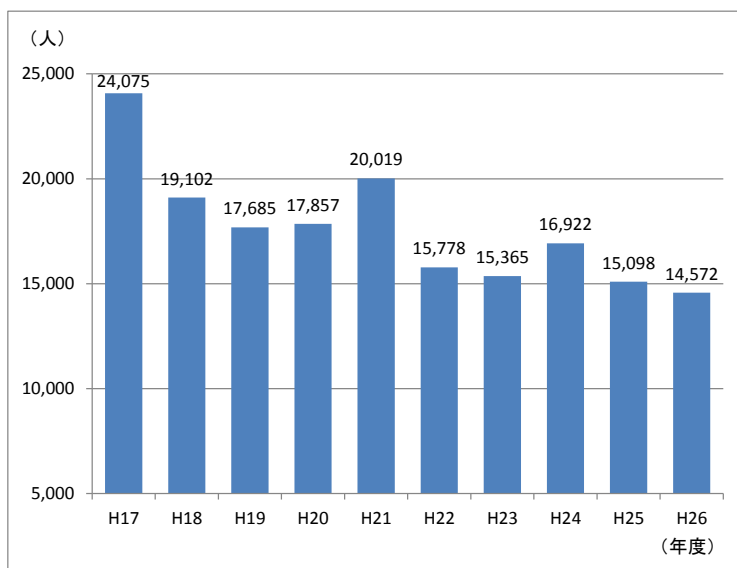


▲村内のスポーツ施設の様子
(くいなエコ・スポレク公園)

②パークゴルフの取組み

国頭村は、くにがみ鏡地パークゴルフ場(18 コース)や、くいなパークゴルフ場(県内最大の 36 コース)を有し、県内の他市町村に先駆けてパークゴルフの取組みを推進してきました。この取組みに着目した各市町村からの視察等を受け入れたことで、現在ではパークゴルフが県内に広く普及しています。

平成 17 年度にはくにがみ鏡地パークゴルフ場を年間約 2 万 4 千人が利用していましたが、県内へのパークゴルフ場の普及や、利用者の高齢化が進んだことで、徐々に村内の利用者数は減少傾向にあります。しかし、平成 26 年時点でも依然として多くの方が村内施設を利用しており、県内のパークゴルフ先進地として、今後も継続的にパークゴルフの取組みを推進していきます。



▲くにがみ鏡地パークゴルフ場利用者数の推移

③トレイルランニング大会

国頭村ならではの魅力を活かした取組みとして、緑豊かな山林を舞台に駆け抜ける「トレイルランニング大会」が開催されています。

初年度となる「第1回 国頭トレイルランニング大会」は、定員が850名にもかかわらず、予想を上回る1,189名の参加者が集まり、宿泊を伴う県外の方も222名参加しました。第2回大会は1,723名、第3回大会、第4回大会は1,776名の参加者がエントリーしています。

▶第4回トレイルランニング大会ポスター



(2) スポーツツーリズム推進に向けた現状の課題

◆地域に根付いたスポーツツーリズムの更なる推進

国頭村の受入インフラの強みとして、スポーツ施設があり、これらの施設を活かして多くのスポーツ合宿等の誘致を実現してきました。スポーツツーリズムは、冬場の閑散期の観光需要拡大に貢献することが期待される分野の一つです。受入れをさらに強化していくためには、スポーツ施設の維持管理、更なる充実を図るだけでなく、スポーツツーリズムの先進地として、地域全体での受入機運を高め、スポーツが産業として地域に根付きより一層選ばれる地域となるような取組みの推進が求められています。

◆競技等の拡大による取組みの強化

国頭村内では、これまでに野球や陸上競技、ウエイトリフティング等のキャンプや合宿を中心に受入を行い、一定の成果を積み重ねてきました。国頭村内のスポーツツーリズムの取組みをさらに推進していくためには、これまでに積み重ねてきた成果を継続するとともに、陸上スポーツに加え、サーフィン等のマリンスポーツを含めた競技の拡大が求められます。2020年東京オリンピック大会を契機とした海外団体の誘致も機会の一つです。

さらには、国頭村の強みの一つである、森林等の自然環境を活かした新たなスポーツ振興の取組みもスポーツツーリズムの振興につながる取組みです。

2.5 村内の観光基盤整備に関するこれまでの取組みと課題

(1) 観光の基盤整備に向けたこれまでの取組み

①ガイドブックによる情報発信検討調査事業（平成 23 年度～）

平成 23 年度から、やんばる 3 村（国頭村、大宜味村、東村）による広域的連携の一環として、地域を県外の方々に知ってもらう機会を創出するために、観光雑誌「るるぶ」をやんばる 3 村地域のみで編集し、発刊させる事業を実施しました。

『るるぶやんばる・沖縄北部』というタイトルで発刊されたこの雑誌は、「村」が主体となって発刊された有料ガイドブックとしては「るるぶ」史上初の取組みとなり、発刊後 3 ヶ月程度で初版分が売り切れるなど、地域住民にとって自信につながる取組みとなりました。

やんばる 3 村（国頭村、大宜味村、東村）の全国に向けた PR 効果は絶大であり、地域住民から自分の住む地域を自慢できるという声が寄せられるなど、発刊から 1 年以上が経過した現在も活用されるガイドブックとなっています。



▲るるぶやんばる・沖縄北部

②やんばるふんばるポスター事業（平成 21 年度～）

「やんばる」を最後の砦としてそこに息づく動植物たちがおり、また、ここで必死に生きている人たちの暮らしがある、そんな「国頭村＝ヤンバル」の現状を「踏ん張る」という言葉に込め、現地の写真家の協力のもと、著名デザイナー梅原真氏が手がけたポスターを作成しました。このポスターは、「第 59 回 日本観光ポスターコンクール」において国土交通大臣賞（金賞）を受賞しました。このポスターをきっかけとして、様々な場所で国頭村を知る機会の拡大が図られています。

▼やんばるふんばる国頭村 6 連ポスター



③ゆるキャラを活用した観光 PR

国頭村公認のゆるキャラとして誕生した、「キョンキョン」、「くーやん」が、村内だけでなく県内外のイベント、式典等に積極的に参加することで、国頭村の観光を広くPRしています。



▲国頭村公認のゆるキャラ

④美ら海水族館（美ら島財団）との連携の動き

美ら島財団との連携で沖縄県北部への誘客キャンペーンを共同で実施しています。

また、美ら海水族館のアンテナショップである国際通りの「うみちゅらら」との提携による国頭村の物産の販売などを行っています。

⑤やんばる観光連携（北部 12 市町村）の動き

北部広域市町村圏事務組合による事業で、北部 12 市町村の連携による観光振興プロジェクト（連携プロジェクトや情報発信）を進めています。

国頭村では、東村、名護市、宜野座村、金武町と協働し、大人の民泊推進をテーマに掲げ連携プロジェクトを推進しています。

⑥ホームページ・ソーシャルメディアによる発信

「癒しのやんばる～国頭村～」(<http://iyashianbaru.jp/>)では、やんばるマップ、特産品、観光情報について紹介しており、「国頭村観光情報コーナー やんばるふんばる国頭村」(<http://kunigami-kikakukanko.com/>)では、国頭村の施設一覧、映像で国頭紹介、イベントを紹介しています。

また、SNS での情報発信も展開しており、国頭村役場 Facebook では、イベント情報についてタイムリーな情報発信を行っています。

今後、国頭村内の観光事業の推進役を担う「国頭村観光協会」の設立が平成 29 年 4 月に予定されており、協会を中心とした多方面へのプロモーションの強化が期待されており、現在でも協会設立に向けた「準備室」がその役割を担い、村内の魅力を県内外に広く発信しています。



▲癒しのやんばる～国頭村～



▲国頭村観光情報コーナー
やんばるふんばる国頭村



▲国頭村役場 Facebook

(2) 観光の基盤整備に向けた現状の課題

◆観光情報提供の充実

国頭村内の観光振興に向けて、村内が誇る豊かな「自然環境」などの魅力に関する情報発信を行ってきましたが、県外居住者に対する「国頭村」の知名度はまだまだ低い状況にあります。そのため、村内訪問のきっかけづくりとなる情報発信、そして訪れた方が地域の観光スポットの場所や楽しみ方を理解するための情報提供の強化が求められています。

また、情報発信においては、広く情報を拡散するだけでなく、マーケティングを行い、的確なプロモーション活動を展開していく必要があります。

◆多様な顧客を意識した観光地域づくり

観光客の旅行形態が個人旅行へと変遷する中で、単純に施設を見て回る観光ではなく、地域を深く知って楽しむことができる観光が求められています。その中で、観光振興を地域の活性化につなげていくためには、滞在時間の延長や消費の拡大が大きな課題となります。

国頭村の現状として、県外観光客だけでなく、県内観光客も豊かな自然を求めて数多く来訪しています。個人旅行化が進む中で、地域を感じる観光拠点の整備、県内外の観光客が気軽に立ち寄り特産品やお土産品を購入できる消費スポットの整備が必要です。さらに、滞在型観光の推進により村内にゆっくりと滞在し、周遊を促進するために、宿泊機能の強化も重要な取り組みであり、村内からも宿泊施設の拡充を求める意見が挙がっています。

また、観光客の多様化の観点では、外国人観光客の来訪が増えており、今後の更なる増加が見込まれることから、サービスや情報の提供といった受入体制を整えていく必要があります。

◆村内の受入インフラ充実の必要性

国頭村内は、公共交通サービスが不足しており、移動手段は自動車に高く依存している状況にあります。観光客の受入強化にあたっては、村外からのアクセス、村内移動の利便性の観点から、休憩機能や駐車機能の充実を含めた、交通インフラの整備が必要不可欠です。

さらに、観光客の満足度向上の観点では、移動の面だけでなく、Wi-Fi やインターネット環境等も、観光の基盤となるインフラ整備の一つとして重要な取り組みです。

◆観光人材の確保・育成

村内の観光関連事業における課題の一つとして、事業者から人材の不足を指摘する意見が多く寄せられています。また、「自然環境」を活かした観光プログラムにおいても、村内に精通した村内出身のガイド育成は重要な課題となっており、収入の安定化や村内定住の取組みと合わせて、総合的に人材の確保・育成を推進する必要があります。

また、観光人材に関しては、今後の更なる外国人観光客の来訪を見据え、多言語対応等の専門スキルを有する人材の育成も求められています。

◆住民の観光に対する理解促進

村民の6割程度が今後の観光振興に期待している中で、否定的な意見も少なからず寄せられています。観光客の多様化により、地域らしさを求め、地域生活に近い体験を求める傾向が高まる中で、観光客の増加による「ごみの増加」、「観光客のマナー」など、生活環境への影響を懸念する意見も寄せられています。

観光の満足度向上には、地域のおもてなしやホスピタリティが重要な要素となるため、村民との対話・コミュニケーションを図りながら、関係機関が連携し、村全体の観光受入意識を高める取組みを推進することが必要です。

◆災害時の危機管理体制の完備

沖縄県では、観光産業に負の影響を与える自然災害や事故等のリスクに関し、観光危機管理の基本的な対応等を定め、観光客の安全・安心が守られる観光地の形成を目指し「沖縄県観光危機管理基本計画」を策定しています。

国頭村においても、災害に強い安心・安全な観光地となるよう、災害発生時に的確に危機管理を行うことができる体制の整備が必要となります。また、災害時の対応においては、外国人観光客にも平等に対応するための配慮や準備が大切です。

第3章 「くんじゃんツーリズム」推進のための基本方針と取り組み内容

3.1 【自然環境】【産業・歴史文化】【スポーツ】を統合する「くんじゃんツーリズム」

国頭村にふさわしい観光振興を考える上で大切なのは、国頭村が誇る自然環境、伝統的な生活や貴重な文化、国頭村が力を入れてきたスポーツの振興といった、多くの学びにつながる観光の要素を継承し、活かすことです。そこで、本計画では、この【自然環境】、【産業・歴史文化】、【スポーツ】という要素を3つの柱として、それぞれについて観光振興を図るとともに、この3つの柱をつなぎ・支える村内全体の観光基盤の充実を図ります。

【自然環境】の分野では、これまでの自然環境の保全と利活用に向けた取り組みを継続的に発展させ、持続可能な環境共生型観光の先進地として、豊かな自然を守りつつ活かすエコツーリズムを実現します。

【産業・歴史文化】の分野では、国頭村は、豊かな自然の恩恵を受けつつ、その恵みを守りながら、農業や林業、漁業といった一次産業を生業としてきました。そうした自然との共生のなかで、人びとは、国頭村特有の文化や風習を育んできました。

国頭村らしい観光を振興する上では、自然環境を背景とした産業や歴史文化を活かす観光が重要です。そこで、国頭村の観光振興では、一次産業と連携したグリーンツーリズムに、歴史文化、風習等を伝えるカルチャーの要素を融合させた「グリーン・カルチャーツーリズム」を推進します。

【スポーツ】の分野では、沖縄県特有の温暖な気候を利用し、スポーツ施設整備を進めて、各種競技団体の合宿の誘致だけでなく、プロ野球のキャンプ地としても観光振興を図ってきました。

これらの3つの柱をしっかりと機能させ推進していくためには、村内の交通や宿泊といったインフラ環境、情報発信機能といった受入基盤を整えていくことが必要不可欠です。

そこで、本計画では、観光の3つの柱にもとづく施策を進めるとともに、この3つの柱の相乗作用を高めるための基盤を整備します。本計画は、3本の柱の推進とその3本の柱の相乗効果を支える観光基盤の整備の全体を「国頭村らしい観光＝くんじゃんツーリズム」とします。

国頭村における観光振興基本計画の体系

「くんじゃんツーリズム」のもと、国頭村内の観光振興を実現するための基本理念と取組みの方針を観光振興基本計画の体系として整理します。

基本理念

命・癒し・健康をコアとする「くんじゃんツーリズム」の実現

- ▶ 国頭村が有する豊かな自然がもたらす、村内観光の核となる「命」「癒し」「健康」という3つのキーワードを村内全体で共有し、国頭らしい観光＝くんじゃんツーリズムを一丸となって推進！

基本理念を実現するための基本方針

【自然環境】、【産業・歴史文化】、【スポーツ】という3本の柱を「エコツーリズム」、「グリーン・カルチャーツーリズム」「スポーツツーリズム」として推進するとともに、
3本の柱の相乗効果を高めるための観光基盤の整備を行う。
この全体を「くんじゃんツーリズム」として推進する。

『国頭らしい観光』＝『くんじゃんツーリズム』



観光振興に向けた施策と取組内容

基本方針に基づく、今後展開する施策と取組内容を以下に示します。

項目		施策	取組内容
3つの柱	【自然環境】 エコ ツーリズム	●施策1 環境共生型観光の推進	①環境保全ルール・仕組みの構築 ②環境保全と利活用の両立に向けた取組み ③世界自然遺産登録に向けた取組みの強化 ④森林ツーリズムの推進 ⑤海洋ツーリズム計画の推進
	【産業・歴史文化】 グリーン・カルチャー ツーリズム	●施策2 一次産業、歴史文化資源 の保全利用の推進	①一次産業と連携した観光事業の実施 ②民泊の受入強化 ③ご当地メニューの開発 ④お土産品の開発 ⑤集落散策の推進 ⑥歴史文化資源を活用した新たな観光プログラムの検討 ⑦村内イベント・祭りの活用
	【スポーツ】 スポーツ ツーリズム	●施策3 スポーツツーリズムの推進	①スポーツ施設の整備 ②スポーツ合宿・キャンプ等の誘致 ③プロスポーツキャンプ等の視察観光の推進 ④マリンスポーツの推進 ⑤サイクリングツーリズムの推進 ⑥パークゴルフの推進 ⑦スポーツの推進 ⑧2020年東京オリンピック大会の事前合宿誘致
3つの柱を つなぎ・支える 観光基盤		●施策1 ブランドの強化・情報発信	①マーケティングの実施 ②プロモーションの実施
		●施策2 滞在型観光の推進	①村内周遊の促進 ②観光拠点の整備 ③宿泊施設の誘致
		●施策3 外国人旅行者（インバウンド） 対応の強化	①多言語対応スタッフの確保・育成 ②多言語案内サインの整備 ③多言語情報発信ツールの作成
		●施策4 村内インフラの整備	①アクセス道路の整備 ②「道の駅」等の休憩施設の整備 ③駐車場の整備 ④地域交通の強化 ⑤Wi-Fi環境の充実 ⑥インターネット高速回線の普及
		●施策5 観光人材の育成	①観光ガイドの育成・支援 ②村内人材の登用 ③村民の観光受入意識の醸成 ④村内の若い人材が活躍できる場の創出
		●施策6 広域的な連携	①やんばる3村連携 ②12市町村との連携 ③他市町村との連携 ④国・県との連携
		●施策7 村内の推進体制強化	①観光協会の機能強化 ②地域関係団体間の連携強化 ③モニタリング体制の充実 ④多様な観光人材の確保
		●施策8 災害に強い観光まちづくり	①危機管理体制の整備 ②防災情報等の提供 ③多言語での情報発信

3.2 自然環境の保全と持続性を実現したエコツーリズムの推進

自然環境の保全と利活用の取組みを継承し、持続可能な環境共生型観光の先進地として、エコツーリズムを推進します。ここでは、エコツーリズムの推進に向けて、具体的な取組み内容、スケジュール等を設定します。

◆施策 1 環境共生型観光の推進

やんばる特有の自然環境を村内の観光資源として持続的に利活用していくため、環境共生型観光の先進地として、保全と活用のバランスがとれた観光振興を目指します。

* 取組①：環境保全ルール・仕組みの構築

- 平成 27 年度より策定している「国頭村森林ツーリズム推進全体構想」に基づき、貴重な観光資源を持続的に活用するための共通ルールの策定に取り組めます。
- 将来にわたり、自然環境の保全・利活用のバランスが確保できるよう、森林等の利用に関するルールの条例化を見据えた取組みを推進します。

* 取組②：環境保全と利活用の両立に向けた取組み

- 自然環境の保全・利活用の両立を図るためには、村民および観光客が、自然環境の尊さを知り、行動する必要があるため、両立の実現に向けた情報発信や学習機会の創出を行います。
- また、学習機会の創出に寄与する施設の整備、環境の保全につながる拠点整備等にも取り組めます。

* 取組③：世界自然遺産登録に向けた取組みの強化

- やんばるの貴重な生態系や生物の多様性を後世にしっかりと残し、伝えていくために、世界遺産登録の実現に向けた取組みを継続的に実施します。
- 登録地域にあたる周辺地域との連携体制を強化し、一体となった取組みを推進します。

* 取組④：森林ツーリズムの推進

- 新たなツーリズム商品や組織の構築等の検討を図り、やんばるの森を国頭村の観光資源として最大限に活用した森林ツーリズムの推進に取り組めます。
- 村内の既存施設も有効に活用しながら、動植物だけでなく、星空や滝といった資源を活用した観光プログラムを創出します。

* 取組⑤：海洋ツーリズム計画の推進

○村内の各地区にある港やビーチ等の資源を観光に活用できるよう整備を推進し、国頭村観光の新たなコンテンツとして、海洋ツーリズムに取り組めます。

○遊覧船の運行、ダイビングといったマリンレジャーの充実、マリンパークの整備等の新たな観光資源を創出します。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
①環境保全ルール・仕組みの構築				●	●		△
②環境保全と利活用の両立に向けた取組み				●	●	●	
③世界自然遺産登録に向けた取組みの強化		■ ■ ■ ■		●	△		△
④森林ツーリズムの推進				△	●	●	
⑤海洋ツーリズム計画の推進				△	●	●	

※ ●：実施主体、△：協働主体

3.3 産業・歴史文化の連携、活用によるグリーン・カルチャーツーリズムの推進

一次産業と連携したグリーンツーリズムに、歴史文化、風習等を伝えるカルチャーの要素を融合させた、国頭だからこそ体験できるグリーン・カルチャーツーリズムを推進します。ここでは、グリーン・カルチャーツーリズムの推進に向けて、具体的な取り組み内容、スケジュール等を設定します。

◆施策2 一次産業および歴史文化資源の保全利用の推進

村内の主要な一次産業である「農業」「林業」「漁業」との連携や、村内消費の促進に寄与する地域の特産品・お土産品の開発は重要な取り組みであり、地域に根付き、新たな顔となる観光プログラム、特産品やお土産品の開発を目指します。

また、国頭村は、“自然環境”以外にも魅力ある“歴史文化資源”を有しています。これまでも集落散策などの取り組みを行ってきましたが、村内観光の更なる充実に向けて、歴史文化資源や村内の祭り、イベント等の保全利用の推進を目指します。

* 取組①：一次産業と連携した観光事業の実施

- 一次産業（農業、林業、漁業）と連携した既存体験メニューの拡充を図ります。
- また、各産業の関係団体との連携を強化し、新たな体験メニューの開発を行うことで、体験等の着地型の観光プログラムを推進します。

* 取組②：民泊の受入強化

- 村内での宿泊手段の一つとして、村民とのふれあいや地域の生活体験ができる民泊の受入機能の強化に向けた取り組みを推進します。
- 村内の推進体制の強化に向けて、村内の農家への周知方法、協力者への支援体制を検討し、民泊の受入農家数の拡大を目指します。

* 取組③：ご当地メニューの開発

- 観光客の楽しみの一つに地域の食文化の体験が挙げられることから、ハイケイやフーヌイユ等の国頭村特有の食を活かした、ご当地メニューを開発します。
- 村内の飲食店や各種施設等と連携し、昼夜両方の時間帯において、ご当地メニューを含み安定的に食事を提供できる環境・体制づくりに取り組みます。

* 取組④：お土産品の開発

- 村内の資源や特産品を活用したお土産品の開発に取り組みます。
- さらに、お土産品の開発にあたっては、村内でお土産品を生産できる体制の構築が必要となるため、企業の誘致や雇用拡大につながる取り組みを目指します。

***取組⑤：集落散策の推進**

- 既存の「集落散策ガイドブック」や「ガイドツアー」を活用し、地区ごとの特色を活かした集落散策の推進に向け、プログラムや運営体制の構築を目指した取り組みを継続的に行います。
- 集落散策の運営体制強化に着手し、村内全集落分の「集落散策ガイドブック」作成に向けた取り組みを推進します。

*** 取組⑥：歴史文化資源を活用した新たな観光プログラムの検討**

- 村内の観光コンテンツの拡充に向け、村内の歴史文化資源の掘り起し、活用可能な資源の選定を行います。
- 各種資源の活用方法、組合せを検討し、歌碑めぐり、用水路遺跡群の利活用といった新たな観光プログラムを創出します。

＊取組⑦：村内イベント・祭りの活用

- 歴史文化資源の一つとして、各地区の伝統芸能や歴史のある行事、祭り等を観光分野に活用した取り組みを行います。
- また、行事や祭りの継続的な実施を確保するため、運営体制の強化を図ります。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
①一次産業と連携した観光事業の実施				●	●	●	●
②民泊の受入強化				●	●		△
③ご当地メニューの開発				●	●		
④お土産品の開発				●	●	●	
⑤集落散策の推進				●	●	●	●
⑥歴史文化資源を活用した新たな観光プログラムの検討				●	●	●	
⑦村内イベント・祭りの活用				●	●	●	●

※●：実施主体、△：協働主体

3.4 健康増進・スポーツ振興の更なる充実を図るスポーツツーリズムの推進

これまでの経験や知識を活かし、更なる施設の充実、受入体制の強化を図り、新たな対象領域の拡大、地域に根付いたスポーツツーリズムを推進します。ここでは、スポーツツーリズムの推進に向けて、具体的な取り組み内容、スケジュール等を設定します。

◆施策3 スポーツツーリズムの推進

国頭村が有するスポーツ施設を活用し、現在も多くのスポーツキャンプや合宿が村内で行われています。スポーツツーリズムは冬場の需要拡大につながることを期待されるため、地域に産業として根付かせ、より一層の誘致につなげていくことを目指します。

*取組①：スポーツ施設の整備

- 更なるスポーツツーリズムの推進に向け、既存スポーツ施設の各種設備や備品等充実を図るため、計画的な取り組みを推進します。
- 村内で受入れが可能な競技、スポーツの拡大を見据え、新たなスポーツ施設の整備を行います。

*取組②：スポーツ合宿・キャンプ等の誘致

- プロスポーツのキャンプや各種競技の合宿等の受入数の拡大に向けて、誘致活動の強化を行います。
- また、受入体制の強化を図るため、合宿受入に適した宿泊施設の整備を行います。

*取組③：プロスポーツキャンプ等の視察観光の推進

- プロスポーツのキャンプやトップアスリートの合宿は知名度が高く、視察や見学を目的とした来客の獲得が期待できるため、プロスポーツキャンプやトップアスリート合宿等の視察・見学を観光プログラムの一つとして推進します。

*取組④：マリンスポーツの推進

- 村内の東海岸等はサーフィンや釣りといったスポーツに適した海洋資源を有しており、陸上スポーツだけでなく、マリンスポーツの推進に向けた取り組みを行います。

* 取組⑤：サイクリングツーリズムの推進

○国頭村は、自転車競技に適した条件を有しており、サイクリングの目的地としても利用が図られています。利用環境の整備などサイクリングツーリズムの推進に向けた取組みを行います。

* 取組⑥：パークゴルフの推進

○国頭村は、県内最大 36 ホールを有するパークゴルフ場を有しており、誰もが気軽に楽しめ、健康寿命の増進につながるパークゴルフの利用者増加に向けた取組みを実施します。

* 取組⑦：スポーツの推進

○トレイルランニング大会は回を重ねるごとに盛り上がりを見せており、豊かな自然を駆け抜け、健康に寄与する取組みを継続的に実施します。

○現在、村内で盛んに合宿等が行われている野球、陸上、ウェイトリフティング以外の競技の受入や、森林を活用したスポーツの振興に取り組めます。

* 取組⑧：2020 年東京オリンピック大会の事前合宿誘致

○村内のスポーツコンベンション機能を高め、沖縄県との連携のもと、2020 年東京オリンピック大会の事前合宿の誘致に向けた取組みを推進します。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
①スポーツ施設の整備	■			●			
②スポーツ合宿・キャンプ等の誘致	■	■ ■ ■ ■		●	●		
③スポーツキャンプ視察観光の推進	■			●	●	●	
④マリンスポーツの推進	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■		●	●	●	
⑤サイクリングツーリズムの推進	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■		●	●	●	
⑥パークゴルフの推進	■			●	●	●	
⑦スポーツの推進	■			●	●	●	
⑧2020 年東京オリンピック大会の事前合宿誘致	■			●			

※ ●：実施主体、△：協働主体

3.5 「くんじゃんツーリズム」推進のための3つの柱を支える受入基盤整備

3つの柱をしっかりと機能させていくために必要となる、インフラ環境、情報発信等の「受入基盤」と、人材育成等を含めた「受入機運」の整備・向上につながる受入体制整備を推進します。ここでは、受入体制整備の推進に向けて、施策ごとに、具体的な取り組み内容、スケジュール等を設定します。

◆施策1 ブランドの強化・情報発信

やんばる国立公園の指定、今後の世界自然遺産登録を契機として、国頭村の知名度の向上と観光振興を図るため、ターゲット層を設定し、効率的かつ効果的なプロモーションを実施することで、「やんばる・国頭ブランド」の醸成と、情報発信の強化を目指します。

*取組①：マーケティングの実施

- 国頭村が有する観光資源やポテンシャルを整理し、強み・弱みを明確にすることで、今後の国頭村らしい観光振興の方向性を示します。
- 国頭村の観光の特性を見極め、身の丈に合った的確な観光振興を図るために、誘客のターゲットとする客層を設定します。
- 国頭村のブランド力強化に資する取組みとして、国頭村の特産品、お土産品の認定制度の立ち上げを行います。

*取組②：プロモーションの実施

- ターゲット層への効果的な情報発信を含め、適切な情報発信を展開するためのプロモーション広報戦略を立案します。
- 地域の魅力や観光資源の情報を集約し、分かりやすく情報を発信します。
- 「やんばる・国頭ブランド」の知名度向上を図るため、テレビやラジオ、DM・新聞・チラシの広告、SNSといった多様な媒体・手段を活用して村内の観光情報を積極的に発信します（ロゴマークを積極的に活用）。
- 旅行博などの県外で開催されるイベント等に積極的に参画し、村内観光の魅力を県外にPRします。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
①マーケティングの実施	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	●	●		
②プロモーションの実施	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	●	●		

※ ●：実施主体、△：協働主体

◆施策2 滞在・体験型観光の推進

観光客の多様化が進む中で、選ばれる観光地となるためには、見て終わりではなく、滞在型・体験型観光の推進を図ることが重要です。村内周遊の仕組みや立ち寄り拠点の整備、宿泊施設の整備といった、村内の滞在時間を伸ばすための取り組みを推進します。

***取組①：村内周遊の促進**

- 村内に点在する歴史文化資源の情報を集約し、観光資源としてのポテンシャルや保全・整備の必要性等を整理します。
- また、活用可能な観光資源を、ストーリー性を持ってつなぎ、村内周遊を促す観光プログラムを創出します。

*取組②：観光拠点の整備

- 辺土名地域や辺戸岬周辺地域において、村内観光における拠点として、休憩や立ち寄り機能を有する施設を整備します。
- また、現在拠点としている「道の駅」等の施設について、設備の充実を図り、拠点としての機能を強化します。
- 各地区の共同売店や漁港といった施設も活用可能性が高いと考えられるため、村内のふれあいや交流の拠点としての利活用を行います。

* 取組③：宿泊施設の誘致

- 村内滞在の基盤となる、宿泊施設の増加を図るため、部屋数が多いリゾートホテル等の新規誘致に取組みます。
- 観光客の多様化への対応として、ドミトリーや自然環境を満喫できるグランピングといった簡易型の宿泊施設についても整備を推進します。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
① 村内周遊の促進				●	●	●	
② 観光拠点の整備				●	●		
③ 宿泊施設の誘致		■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	●			

※●：実施主体、△：協働主体

◆施策3 外国人旅行者（インバウンド）対応の強化

ここ数年で確実に増加している外国人観光客は、今後も更なる拡大が期待されます。人材育成、多言語対応の充実に取り組むことで、外国人観光客も国頭の魅力を感じ、学び、癒される観光地となることを目指します。

***取組①：多言語対応スタッフの確保・育成**

- 外国人観光客の安心・安全な観光の実現、満足度向上を図るため、観光案内所や村内の主要施設において、多言語での対応が可能な人材の確保に取組みます。
- また、村内人材の積極的な登用の観点から、言語面だけでなく、外国人観光客の特徴や対応のポイント等を含めた勉強会等の人材育成の活動を推進します。

***取組②：多言語案内サインの整備**

- 外国人観光客への情報発信の充実を図るため、村内の観光案内サインの多言語化に取り組めます。
- また、村内観光における移動手段が自動車に依存している状況から、自動車用の案内サインに関しても、多言語対応を図ります。

* 取組③：多言語情報発信ツールの作成

- 外国人観光客の誘客を図るため、HP や SNS 等での多言語での情報発信、各種パンフレット等の多言語化を推進します。
- また、外国人観光客と村内の観光関連事業者間の円滑なコミュニケーションに資する多言語ツールの作成等も行います。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	市民
①多言語対応スタッフの確保・育成		■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	●	●		
②多言語案内サインの整備				●			
③多言語情報発信ツールの作成				●	●	●	

※●：実施主体、△：協働主体

◆施策4 村内インフラの整備

村内観光の移動手段が自動車に大きく依存している中で、村内周遊の促進や滞在型観光の実現に向けて、観光の基盤となる交通アクセスや宿泊機能といった村内のインフラ全般の整備と強化を目指します。

* 取組①：アクセス道路の整備

- 村内周遊の促進に向けては、拠点間のアクセス時間の短縮や観光施設等へのアクセスしやすさが重要となるため、道路ネットワークの整備を行います。
- また、観光客の満足度向上を図るため、既存道路の改修による通行しやすさ確保、植栽の管理による美しい景観の維持といった取組みを計画的に遂行します。

* 取組②：「道の駅」等の休憩施設の整備

- 村内の東海岸地域は休憩施設を有した拠点が不足しているため、東部地域の周遊観光の拠点となる「道の駅」等の新たな施設の整備に取り組めます。

* 取組③：駐車場の整備

- 観光資源へのアクセス性を高めるため、各地域の拠点となる観光資源や施設における駐車容量の拡大に向けた整備を行います。
- 自然環境保全の観点から、自動車交通を抑制すべき地域への進入を回避できるよう、計画的に駐車場を整備するとともに、駐車場に関する情報を的確に発信する仕組みを構築します。

* 取組④：地域交通の強化

- 自動車への依存は、環境汚染や事故、渋滞への影響が懸念されるため、自然環境にやさしい安全な移動手段の確保に向けた、公共交通機関等の充実・確保に向けた整備を行います。
- 超高齢社会の進展により、高齢の観光客も村内の自然環境を楽しむことができるツール、さらに簡易な移動手段として超小型モビリティの導入を推進します。

* 取組⑤：Wi-Fi 環境の充実

- 外国人観光客を含め、旅行先でのWi-Fi環境の充実に対するニーズが高まってきており、村内の受入基盤の強化を図るため、Wi-Fi環境の整備を推進します。

* 取組⑥：インターネット高速回線の普及

○観光情報の入手方法としてインターネットの活用が増加している中で、観光客の満足度向上および効果的な情報発信の実現に向けた通信環境の充実を図るため、インターネット高速回線の普及に取り組めます。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
①アクセス道路の整備				●			
②「道の駅」等の休憩施設の整備				●	●		
③駐車場の整備				●			
④地域交通の強化				●		●	
⑤Wi-Fi 環境の充実				●			
⑥インターネット高速回線の普及				●			

※ ●：実施主体、△：協働主体

◆施策5 観光人材の育成

国頭らしさをもった観光客のおもてなしを実現するため、観光を支え活躍する観光人材の確保・育成や、村民とのコミュニケーションを積極的に図る取組みを行い、村全体の受入意識の醸成とホスピタリティの高い観光まちづくりを目指します。

*取組①：観光ガイドの育成・支援

- 国頭村の豊かな自然の貴重さ、保全と利活用のバランスの重要性を理解し、観光客にその魅力や保全ルール等を伝え、案内することができる観光ガイドの育成およびその支援を行います。
- また、観光拠点において周辺地域を含めた観光案内、相談対応等が可能な地域精通度が高いコーディネータの育成・確保に取り組めます。

*取組②：村内人材の登用

- 観光人材の育成・確保においては、村内人材を積極的に登用し、国頭村らしい観光の実現に向けた取組みを推進します。
- 将来的に村内の観光を支える人材の確保に向けて、村内で観光に関連する起業を考えている方を支援する制度の策定や、起業しやすい風土づくり、活躍の場の提供等の取組みを推進します。
- 人材が不足している箇所に、適切な人材を配置できるよう、人材バンクの構築やマッチングする仕組みづくりを推進します。

*取組③：村民の観光受入意識の醸成

- 持続可能な観光の実現に向けて、村民一人ひとりが国頭村の貴重な自然環境や歴史文化を理解し、伝えていくことができるよう、観光に対する理解を深め、観光客の受入に対する意識を醸成するための取組みを推進します。

*取組④：若い人材が活躍できる場の創出

- 観光の取組みを継続し、将来にわたって国頭村の観光振興に取り組むためには、村内の若い人材の現場への積極的な参画を促し、アイデアを実現していく仕組みが必要となることから、既存のワーキングの組織化を含め、若い人材が活躍できる場を創出します。
- 琉球大学や名城大学との提携等による県内の若い人材の積極的な登用に向けた取組みを推進します。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
①観光ガイドの育成・支援	■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	●	●		
②村内人材の登用	■ ■ ■ ■ ■			●	●		
③村民の観光受入意識の醸成	■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	●	●		●
④若い人材が活躍できる場の創出	■	■ ■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■ ■	●	●		

※●：実施主体、△：協働主体

◆施策 6 広域的な連携

やんばるや国頭村の知名度向上を図り、観光誘客を効率的に推進するため、周辺地域と一体となって取組めます。

* 取組①：やんばる3村連携

○やんばるの森の保全と利活用の推進、民泊の受入強化に向け、隣接する大宜味村、東村とのやんばる3村連携による取組みを推進します。

○やんばる3村観光物産フェアの開催、観光案内所における3村情報の提供といった、3村連携を高める既存の取組みを今後も継続的に実施します。

* 取組②：12市町村との連携

○沖縄県の玄関口である那覇空港からのアクセス性に課題を抱えている北部地域の12市町村が連携を強化し、拠点整備やプログラムの開発といった北部地域の活性化につながる広域的な取組みを継続的に実施します。

* 取組③：他市町村との連携

○与論町との祖国復帰記念行事のように、国頭村単体ではなく、歴史や文化でつながった他地域と連携した取組みを継続的に実施します。

* 取組④：国・県との連携

○2020年の東京オリンピック大会の事前合宿誘致のように、国・県の動きと協働し、観光等の誘客活動を実施します。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
①やんばる3村連携			■ ■ ■ ■	●	●	△	
②12市町村との連携			■ ■ ■ ■	●	●	△	
③他市町村との文化面での連携			■ ■ ■ ■	●	●	△	
④国・県との連携			■ ■ ■ ■	●	●	△	

※ ●：実施主体、△：協働主体

◆施策 7 村内の推進体制強化

観光振興の中心を担う観光協会の設立および機能強化を図るとともに、環境共生型の観光に先進的に取組み、国頭の魅力を最大限に高めるため、農業、林業、漁業等の一次産業と連携した取組みを推進するなど、村全体の体制強化を目指します。

* 取組①：観光協会の機能強化

- 村内の観光振興を主体的に推進する観光協会を設立します。
- 村内観光の推進役として、観光客への情報発信、相談対応、ツーリズム企画等の役割を担うための人材確保を含めた観光協会の機能強化を図ります。

* 取組②：地域関係団体間の連携強化

- 国頭村内の関係者が共通の理念を持ち一体的な取組みを推進するため、観光関連団体が一堂に会し議論する場を設け、連携の強化を図ります。
- 村内産業の基盤である農業、林業、漁業等の一次産業と連携し、体験メニューの創出、お土産品の開発等を推進します。

* 取組③：モニタリング体制の充実

- 観光振興に向けた施策や取組みを評価し、効率的かつ効果的に事業を推進するためのモニタリング体制の充実を図ります。

* 取組④：多様な観光人材の確保

- 国頭村の観光振興を支える多様な人材の確保に向けて、村外からの移住者が安心して活躍できる環境を整備するため、村内の空き家や空き地を活用した移住・定住支援を充実していきます。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
①観光協会の機能強化	■			●	●		
②地域関係団体間の連携強化	■	■ ■ ■	■ ■ ■	●	●		
③モニタリング体制の充実	■	■ ■ ■	■ ■ ■	●			
④多様な観光人材の確保	■			●			

※ ●：実施主体、△：協働主体

◆施策 8 災害に強い観光まちづくり

沖縄県において定めている「観光危機管理計画」に基づき、観光客を迎えるにあたって、災害発生時等に村内に滞在する観光客の安全を確保できる危機管理体制を構築し、災害に強い観光まちづくりを目指します。

* 取組①：危機管理体制の整備

- 荒天時や災害発生時等の緊急対応に関する村内の「観光危機管理計画」を策定し、村民および観光客の安全確保を果たすための体制を整備します。
- 「道の駅」等の拠点における防災備蓄倉庫の整備等、緊急時における村内の防災機能の強化、災害への備えの充実を図ります。

* 取組②：防災情報等の提供

- 緊急時に村民および観光客の円滑な避難行動を支援する防災情報等を提供するための検討、体制の構築を行います。
- 防災情報は、初めて村内を訪れた方も確実に避難できる分かりやすい情報が求められるため、高齢者や障害者等の避難にも配慮した、情報内容や提供方法等の充実を図ります。

* 取組③：多言語での情報発信

- 外国人観光客を含めた、緊急時に国頭村に滞在している全ての観光客の安全を確保できるよう、防災情報を多言語で発信する体制の構築を行います。

★取組みの実施シナリオ

取組み	取組みのスケジュール			関係主体※			
	短期	中期	長期	行政	観光団体	事業者	村民
①危機管理体制の整備	■			●			
②防災情報等の提供	■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	●			
③多言語での情報発信	■	■ ■ ■ ■	■ ■ ■ ■	●			

※●：実施主体、△：協働主体

3.6 取組みの効果を検証するための目標水準

本計画に基づき観光振興への取組みを推進することで、「くんじゃんツーリズム」の推進による10年後の将来像に対して、どの程度近づいているかを評価するための指標として、具体的な数値目標を以下のように定めます。

① 村内を訪れる入込観光客数の増加

国頭村内の観光資源の魅力を高め、県内外に発信することで、どのくらいの方が関心を持ち、村内を訪れているかを測る指標として設定し、入込観光客数の増加を目指します。

指標	現状（H27）	目標値（H38）	備考
入込観光客数	約 59.8 万人	71 万人	● 現在の統計調査を活用し、村内主要施設の入込客数を集計します

② 村内での観光消費額

国頭村内の観光産業が、どのくらい成長し収益につながっているかを測る指標として、県内外からの観光客が村内で消費する金額を設定し、観光収益の増加を目指します。

指標	現状（H27）	目標値（H38）	備考
観光消費額	8,100 円	9,600 円	● 観光客を対象とした調査を毎年実施し、実績値を集計します（祝祭日）

③ 観光人材の雇用者数

国頭村の観光振興に向けた体制強化、観光産業の拡大状況を測る指標として、国頭村内で活躍する観光人材（村内居住者が望ましい）の増加を目指します。

指標	現状（H28）	目標値（H38）	備考
村内の観光人材雇用者数	—	4 名	● 観光協会等において、村内観光の振興に直接的に従事する人材の雇用者数を集計します
若者の観光人材雇用者数	—	10 名	● 観光ガイド人材として、新たに従事する若者の数を集計します

④宿泊施設

国頭村の観光振興においては、滞在型の観光を目指した取り組みが必要となり、その基盤となる宿泊施設数を指標として設定し、宿泊施設数、客室数の増加を目指します。

指標	現状（H28）	目標値（H38）	備考
村内宿泊施設の施設数	14 施設	16 施設	●本計画策定後の、村内の宿泊施設の数を集計します
村内宿泊施設の客室数	330 室	450 室	●本計画策定後の、村内宿泊施設の客室数を集計します

⑤民泊の受け入れ数

国頭村内の観光振興に向け、観光コンテンツの一つである民泊の取り組み強化に向けた取り組みの達成度を測る指標として設定し、民泊の受け入れ数の増加を目指します。

指標	現状（H27）	目標値（H38）	備考
民泊の受け入れ数	1,676 人	3,340 人	●村内の民泊受け入れ数を集計します

⑥集落散策ガイドブックを作成した集落数

歴史文化を活かした集落散策の推進に向けた取り組みの進捗度を測る指標として設定し、集落散策ガイドブックを作成した集落数の増加を目指します。

指標	現状（H28）	目標値（H38）	備考
集落散策ガイドブックを作成した集落数	9 集落	20 集落 (村内全集落)	●集落散策ガイドブックを作成した村内の集落数を集計します

⑦スポーツ合宿数

国頭村が有する資源の1つであるスポーツ施設の活用とスポーツツーリズムの振興度を測る指標として設定し、スポーツ合宿の団体数の増加を目指します。

指標	現状（H27）	目標値（H38）	備考
村内で合宿を行う県外スポーツ団体数	55 件	66 件	●1年間に村内でキャンプや合宿を実施する県外スポーツ団体数を集計します

第4章 地区別「くんじゃんツーリズム」の推進構想

ここでは、国頭村内の地域特性が異なる3つの地域（辺土名地区、西部地区、東部地区）ごとに、観光振興に向けた取組みの方向性と具体的な内容を示します。

4.1 辺土名地区

（辺土名・浜・半地・鏡地・比地・奥間・桃原・宇良・伊地・与那）

- 辺土名地区は、国頭村の玄関口であり、道の駅や各種スポーツ施設、リゾートホテル、宿泊施設といった観光の「拠点」としての機能を有する地域です。
- 森林や清流、海、自然景観など、観光資源として活用可能な魅力的な素材が豊富です。
- 中心市街地である辺土名大通り周辺のさらなるにぎわいの創出が求められています。



辺土名地区の観光の将来像

“豊かな森”と“美しい水”を活かした、村内観光の『起点』を担う拠点エリア

【取組みの方向性】

観光の将来像の実現に向けて、辺土名地区では以下のような取組みを推進します。

- 村内の玄関口／起点として、村内観光の情報を集約し、効果的に発信するための取組みを推進します。
- 施設整備を含め、村内観光の「拠点」としての機能の強化を図ります。
- 辺土名大通りのさらなる活性化に向けた取組みを推進します。
- 森林や清流、海を活かしたストーリー性がある観光プログラムを実施します。
- 農業や林業、漁業と連携し、体験型観光メニューや周遊プログラムを実施します。
- スポーツ合宿等の参加者をはじめ、辺土名地区に滞在する観光客の満足度向上を目指し、「食」の充実を図ります。
- 更なるスポーツツーリズムの推進を目指して、宿泊機能を強化します。
- 今後の外国人観光客の増加を見据え、案内サインや情報発信媒体、窓口対応の多言語化を推進します。

4.2 西部地区

(謝敷・佐手・辺野喜・宇嘉・宜名真・辺戸)

- 西部地区は、本島の最北端に位置しており、県内の著名な観光スポットのひとつである辺戸岬周辺は、毎年多くの観光客が訪れています。
- 辺戸岬周辺は、神聖で歴史的な価値が高い遺産が点在しており、歴史文化の面で魅力的な素材が豊富です。
- 観光拠点としての滞在機能や周遊性に課題を抱えており、駐車や休憩機能の拡大、環境保全型の拠点機能の充実が課題となっています。



西部地区の観光の将来像

“神聖な歴史”や“昔ながらの文化”が息づく、周遊型の観光エリア

【取組みの方向性】

観光の将来像の実現に向けて、西部地区では以下のような取組みを推進します。

- 村内の主要な観光スポットである辺戸岬の受入機能の強化を図るため、辺戸岬周辺の拠点整備を行います。
- 地区内に点在する「歴史文化資源」をつなぎ、辺戸岬を拠点とした散策・周遊観光を促進します。
- 地区内の散策路の整備、ガイドマップや案内サイン等の充実を図ります。
- 歴史や昔ながらの文化を学ぶガイドツアーを実施します。
- 歴史的価値が高い観光資源を活用した新たな観光プログラムを創出します。
- 用水路や海底洞窟、防空壕等の保全および利活用を推進します。
- ドライブやサイクリング観光の最北端の拠点として、計画的に駐車場やバイクラック、休憩施設の整備を推進します。

4.3 東部地区

(奥・楚洲・安田・安波)

- 東部地区は、村内で最も広い面積を有し、森林や海、川といった豊かな自然環境に恵まれた多くの希少種が生息する地域です。
- ユッピー浜や港、各種マリンレジャー等の海洋資源を豊富に有しており、その他、体験宿泊施設が立地し、森林ガイドツアー等の体験型プログラムが行われています。
- 道路ネットワークが脆弱であり、地区外からのアクセス、地区内の移動等、交通アクセスの面が課題となっています。



東部地区の観光の将来像

“森林資源”と“海洋資源”が融合した、自然を感じる体験型の観光エリア

【取組みの方向性】

観光の将来像の実現に向けて、東部地区では以下のような取組みを推進します。

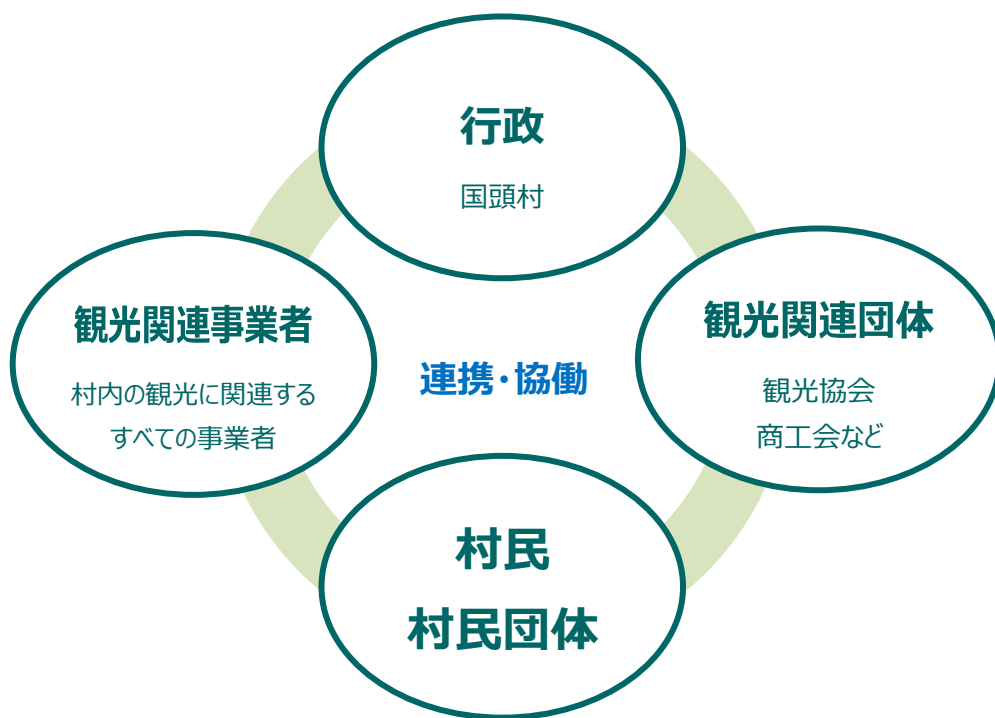
- 東海岸の海洋資源や港を活用した、海洋ツーリズムを推進します。
- 食や定置網体験等のメニューと一体となった総合的な海洋観光プログラムを創出します。
- 貴重な海洋資源を活かしたマリンパークとして、東海岸の自然環境の保全と利活用を推進します。
- 森林、海、川といった自然を満喫する体験型観光プログラムを実施します。
- 路線バスの運行、アクセス道路の整備等、交通アクセスの改善を目指します。
- 東部地区の周遊観光の拠点となる、道の駅等の施設を整備します。
- 返還地（北部訓練場跡地）の有効活用を計画的に推進します。
- ダムツーリズムの取組みを推進します。

第5章 「くんじゃんツーリズム」の主体形成

5.1 国頭観光協会設置と観光政策推進の体制

国頭村がこれまでに取組んできた観光施策を継続し、今後の更なる発展を見据え、村内の観光事業の推進役を担う「国頭村観光協会」が平成29年4月に設立されます。

観光協会の設立を契機として観光事業の進展が期待されますが、村内の観光振興を果たしていくためには、行政と観光協会だけでなく、観光関連団体、観光関連事業者、村民などが、目指すべき観光の将来像を共有し、それぞれが果たすべき役割のもと、相互に連携、協力しながら協働することが重要です。そこで、観光振興を実現するための一体となった体制の構築を目指します。



また、観光振興は短期間で実現するものではなく、世間のニーズに応じた継続的な取組みが求められます。地域として取組みの継続性を確保していくためには、地域の若い世代の参画が必要不可欠となります。

国頭村では観光分野を始め、各関係団体の若い世代が中心となった「くんじゃんチャンプルー会」が発足され、村の将来につながる現場レベルでの活発な議論が行われており、本計画の策定段階からワーキング会を組成し、若い世代の意見を積極的に取り入れた内容となるように検討を行いました。

今後の観光振興に向けた取組みにおいても、観光人材の育成を通じた、次世代を担う若手を積極的に登用し、循環型の体制による検討を進めていきます。

5.2 行政と村民の果たすべき役割

（１）行政の役割

村は、役場内の関係部局との連携を図り、横断的な推進体制を構築するとともに、国・県をはじめ関係市町村や観光関連団体、観光関連事業者および村民との協議・調整を進め、総合的な施策の実現を目指します。

また、様々な取組みの実施主体に対する支援を行うとともに、観光情報の収集や調査研究を進め、観光ニーズに対応したサービスの提供に向けて関係者との情報共有に努めます。

国頭村が有する観光資源等の魅力について、観光関連団体や周辺市町村と連携し、県内外に広くPR活動を展開します。

（２）観光関連団体の役割

観光協会や商工会などの観光関連団体は、村や観光関連事業者等との連携体制を構築し、情報発信や誘客促進のためのPR活動を行います。

また、村内の観光振興に向けた取組みの中核を担うため、関係者との調整および具体的な取組みに積極的に参画します。

（３）観光関連事業者の役割

観光関連事業者は、村内の観光振興の担い手として、主体的に取組みを推進します。

観光関連事業者間の連携・協力体制の充実を図り、観光客のニーズに対応したサービス提供や施設の整備・管理を行います。

また、村内のおもてなし体制の強化に向けて、観光人材の確保・育成を進めます。

（４）村民の役割

村民は、地域の誇れる「自然環境」や「産業・歴史文化」などに誇りを持ち、これらの資源に関する知識を有し、おもてなしの心を持って観光客との交流を深めます。

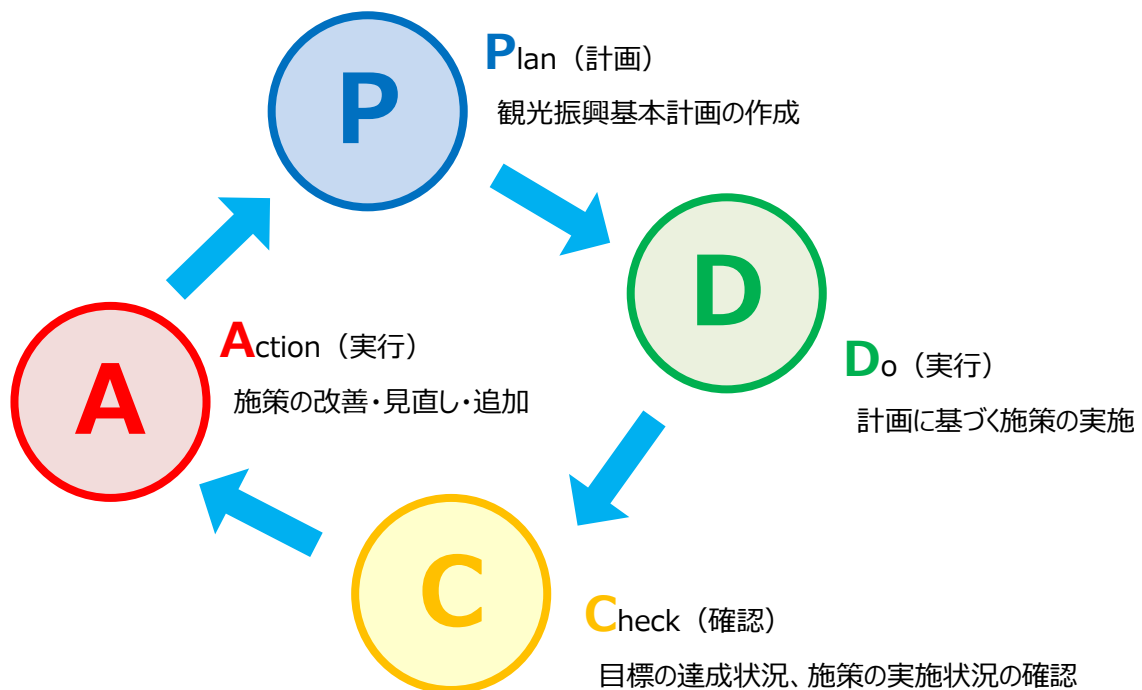
また、村民一人ひとりが観光まちづくりの一員であることを認識し、観光振興に向けた取組みに積極的に参画するよう努めます。

5.3 進行管理

本計画で定めた将来像および目標を達成するため、PDCA マネジメントサイクルの考え方にに基づき、計画の進行管理を行います。

PDCA マネジメントサイクルとは、計画（Plan）⇒実行（Do）⇒確認（Check）⇒改善・見直し（Action）といった一連のプロセスを回すことで、取組みを効果的かつ効率的に実施するための手法です。この PDCA サイクルを用いて計画を推進し、効果の高い運用を目指します。

また、本計画を着実に進行するため、「進捗管理シート」を作成し、観光振興に向けたそれぞれの取組みの施策の進行状況を管理していきます。



★進捗管理シートのイメージ

方針1：ブランドの強化・情報発信										
取組①：マーケティングの実施										
概 要		取組み状況								
		H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37
確認事項等	・ ・									

資料編

1 我が国の観光動向

(1) 我が国における観光政策

①観光立国の推進

国は、「観光立国の実現」を国家戦略として位置づけ、それまでの「観光基本法」を全面的に見直した「観光立国推進基本法」を策定しています。この基本計画では、「国内外から選好される魅力ある観光地域づくり」、「オールジャパンによる訪日プロモーションの実施」、「国際会議等の MICE 分野（会議、イベント、展示会、見本市など、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントの総称）の国際競争力強化」、「休暇改革の推進」が主な施策としてあげられています。

②沖縄の観光振興に向けた支援策

沖縄の観光振興に関する国の支援策として、改正沖縄振興特別措置法による「観光地形成促進地域における優遇措置」をはじめ、「沖縄特例通訳案内士制度」、「沖縄県特定免税店制度」、「航空機燃料税の軽減」などが拡充されています。

③外国人観光客の誘致拡大と観光の高付加価値化

国の「沖縄振興基本方針」による産業の振興に関する基本的な事項として、観光・リゾート産業の持続的な発展に向けて、外国人観光客の誘致拡大と観光の高付加価値化のため、「観光関連施設の集積や公共施設の一体的・重点的な整備促進」、「質の高い人事の育成・確保等の受入体制の整備」、「滞在型観光の促進」、「他分野・産業と観光との連携促進」、「MICE の誘致・開催」を図るとしています。

(2) 我が国における観光の特徴

①短期で回数の少ない国内宿泊旅行

平成 26 年の国民一人あたりの国内宿泊観光旅行の回数は 1.3 回（前年比 7.2%減）、また、国民一人あたりの国内宿泊観光旅行の宿泊数は 2.1 泊（前年比 5.8%減）であった。このことから、国内宿泊旅行は、回数は少なく、かつ短期であることがうかがえます。

（資料：平成 27 年度版 観光白書）

②日帰り旅行が多い国内旅行

平成 26 年の日本人の国内観光旅行者数は、日帰り旅行が延べ 3 億 771 万人で、宿泊旅行が延べ 3 億 499 万人で、日帰り旅行が多い状況です。

（資料：平成 27 年度版 観光白書）

③同行人数の少数化と旅行形態の多様化

宿泊観光の同行人数は、2～3 人が突出して高く、次いで 4～5 人、6～10 人と続いています。この動向は、同行者の多い層が減少し、少ない層が増加する傾向を示しています。

また、旅行目的は、従来の観て回る観光だけでなく、食を楽しんだり景色や自然を体感したりするなど、癒しを求めた旅行目的が増えています。

（平成 27 年度版 観光の実態と志向）

④情報源のインターネット化の進行

宿泊旅行に出かける際に参考とする情報源として、インターネットが近年急速に伸び、トップになっています。それまでは、家族友人の話、ガイドブック、パンフレット、旅行専門雑誌などが主流となっていました。インターネット利用は今後とも増加する傾向にあります。

（平成 27 年度版 観光の実態と志向）

⑤国際化の進展

平成 15 年にビジット・ジャパン・キャンペーン事業を開始以降、訪日外国人旅行者数は増加傾向にあり、平成 26 年には外国人旅行者数は 1,341 万人に達しました。

また、近年においては、訪日外国人旅行者による日本の旅行中の消費も急速に拡大しており、平成 26 年には 2 兆円を超えています。

（資料：平成 27 年度版 観光白書）

2 沖縄県の観光動向

(1) 沖縄県の観光政策

①世界水準の観光リゾート地の形成

沖縄県は、「沖縄県 21 世紀ビジョン基本計画」を踏まえて策定した「沖縄県観光振興基本計画（第 5 次）」（平成 24 年）において、計画の目標を、「世界水準の観光リゾート地」の実現に向けて、沖縄観光が国内外に広く認知される基盤を構築することを目的としています。

そして、目標フレームとして、観光収入 1 兆円、平均滞在日数 5 日、入域観光客総数 1,000 万人（うち外国客 200 万人）を設定しています。実現のための基本施策として、「多様で魅力ある観光体験の提供」、「基盤となる旅行環境の整備」、「観光産業の安定性確保」等を掲げています。

②県全域が観光地形成推進地域に指定

沖縄県は、地域の一体性に配慮しつつ、広域的に観光を振興するために、平成 24 年（2012 年）に「観光地形成促進計画」を策定し、沖縄振興特別措置法第 6 条第 2 項第 2 号に基づく観光地形成促進地域を指定しています。平成 24 年策定の計画によると、県全域が指定地域となっており、本村は北部地域に属しています。

促進地域にあっては、観光関連施設を新・増設した場合に、国税や地方税の投資税額控除等、特例措置を受けることができます。

(2) 沖縄県の観光の特徴

①観光客数は増加傾向に転じ、外国人は順調

平成 27 年度の入域観光客数は、793 万 6,300 人と前年度実績 716 万 9,900 人を 76 万 6,400 人上回り、10.7%増加しています。この内、国内客は前年度実績から 8 万 2,100 人(+1.3%)増加し 626 万 6,000 人、外国客は 68 万 4,300 人(+69.4%)増加し 167 万 300 人となっています。

（資料：平成 27 年度版 観光要覧 沖縄県）

②国別観光客は台湾が多い

平成 27 年度の国別観光客数は、台湾が最も多く 50 万 5,400 人、次いで中国本土の 35 万 4,800 人、韓国の 33 万 2,800 人、香港の 20 万 1,900 人となっています。特に、台湾からは平成 26 年度に比べ 14 万 3,200 人の増加となっています。全体として円安傾向であったことに伴い、訪日旅行需要が高かったことに加え、航空路線の拡充やクルーズ船の例年より長い運行期間と寄港回数的大幅増などによるものと考えられます。

（資料：平成 27 年度版 観光要覧 沖縄県）

③観光収入、1人当たりの消費額が増加

平成27年度の観光収入は6,022億円で、平成26年度に比べ12.7%の増となっています。また、1人当たりの消費額は75,881円で、平成26年度に比べて1.9%増加しています。特に、宿泊費や飲食費は増加傾向にあります。

(資料：平成27年度版 観光要覧 沖縄県)

④観光スタイルの変化、目的の多様化

年々、団体旅行が減少し、個人旅行が増加しています。また、旅行内容も多様化しています。

リピート率は、初回が約16%に対し、リピーターは約84%と、リピーターの多さがうかがえます。また、リピート率が高いほど、ダイビングや保養・休養などの特定目的の活動が高くなる傾向にあります。

(資料：平成27年度版 観光要覧 沖縄県)

⑤沖縄旅行は海の美しさに満足

平成27年度の沖縄旅行の満足度は、「海の美しさ」がトップで約68%、次いで「景観」が59%、「旅行全体」が56%、「スポーツ・レジャー」が50%となっており、自然やスポーツ・レジャーに対する満足度の高さがうかがえます。

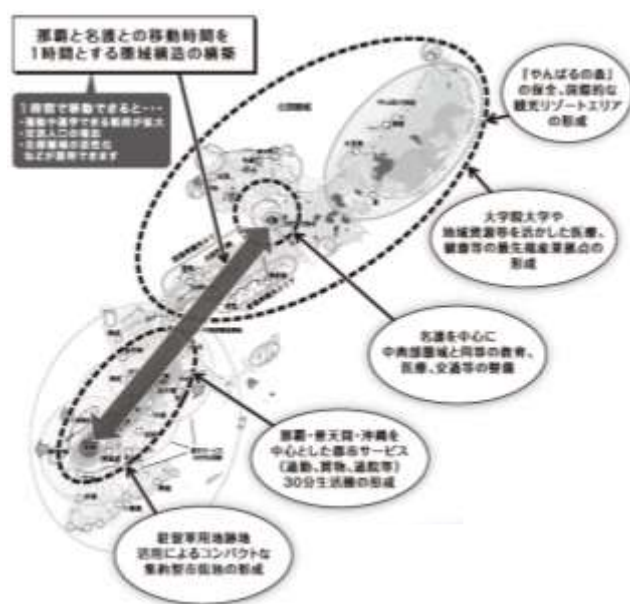
また、やや不満の分野では、「宿泊施設」が9%、「食事」が8%となっています。

(資料：平成27年版 観光要覧 沖縄県)

(3) 今後の観光客の動向に影響を与える事項

沖縄21世紀ビジョン基本計画を上位計画とした、交通分野に関する基本政策の具体的な構想を示す「沖縄県総合交通体系基本計画」(平成24年6月)において、「那覇と北部圏域の中心都市である名護との移動時間を1時間とする圏域構造の構築」が示されています。

構想の実現には長い期間を要しますが、鉄軌道等が整備された場合には、現在の車依存によるアクセスからの転換が図られるため、将来的な公共交通によるアクセス可能性を視野に入れた検討が必要です。



▲沖縄県の将来的な総合交通体系のイメージ

出展：おきなわ鉄軌道ニュース第3号(沖縄県)

3 観光を取り巻く関係者の意識調査結果

国頭村の今後の観光振興の方向性を検討するにあたり、観光振興の一翼を担う村民の皆さんや村内の事業者の皆さん、村内を訪れた観光客の方などの意向等を把握するアンケート調査を実施しました。

(1) 村民の意向

本計画の策定にあたり、国頭村内の観光資源や特産品、観光振興に対する村民の皆さんの意識や意向を把握するためにアンケート調査を実施しました。

【本調査の概要】

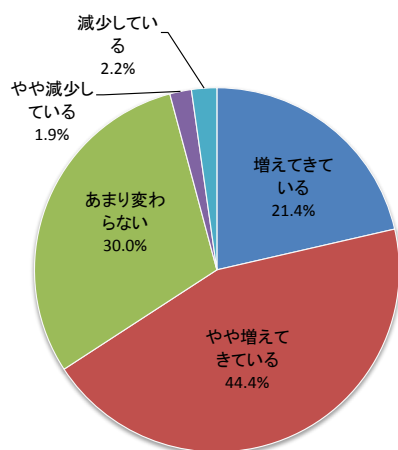
調査対象	： 国頭村在住の 18～75 歳の住民（※無作為に対象者を抽出）
調査方法	： 郵送にて調査票の配布、回収を実施
実施時期	： 平成 28 年 9 月 9 日（金）～平成 28 年 9 月 26 日（月）
回収状況	： 回収数 318 サンプル（回収率 20.4%）

①観光客の来訪動向とその影響

○村を来訪する観光客の増減については、65.8%が、ここ数年で観光客数が「増えてきている」または「やや増えてきている」と回答しています。

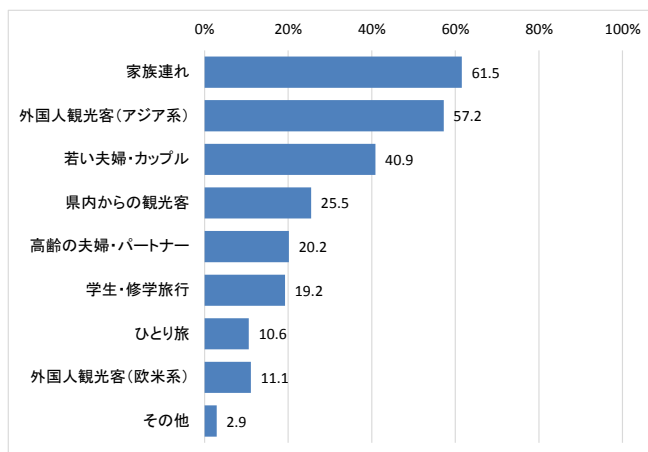
○ここ数年で増加している観光客の属性としては、「家族連れ（61.5%）」や「アジア系の外国人観光客（57.2%）」を挙げる意見が多くなっています。

<村を訪れる観光客の増減>



[回答者数：313]

<増加している観光客の属性>



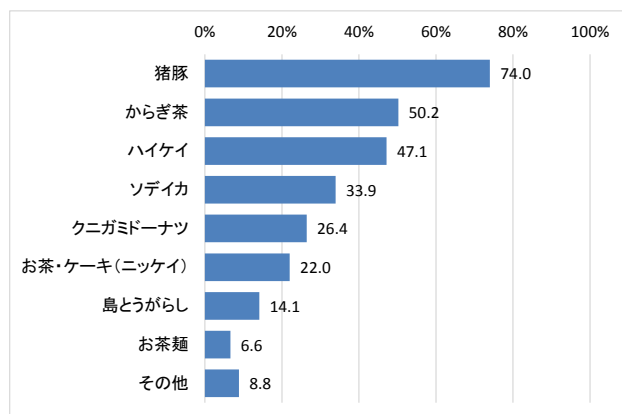
[回答者数：208]

②村内の特産品等に関する意識

○国頭村を訪れた観光客に紹介したい村内の食に関する魅力的な特産品としては、「猪豚」を挙げる意見が74.0%と最も多くなっています。

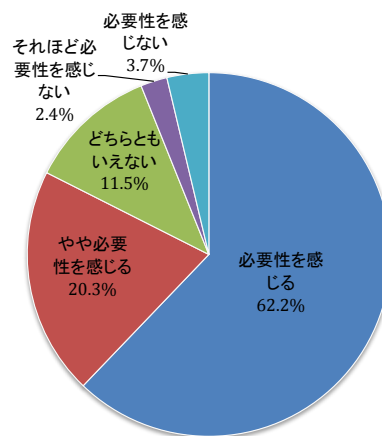
○また、回答者の82.5%が、今後の観光振興に向けて特産品や新たなお土産品の開発について、「必要性を感じる」または「やや必要性を感じる」と回答しています。

＜食に関する村内の魅力を感じるもの＞



[回答者数：227]

＜特産品やお土産品の開発の必要性＞

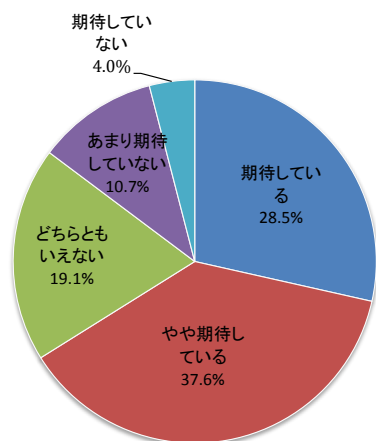


[回答者数：296]

③今後の観光振興の取組みについて

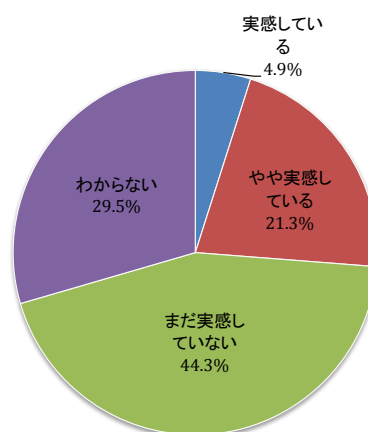
○村民の66.1%が、今後の観光振興に「期待している」または「やや期待している」と回答していますが、現時点で、約半数（44.3%）の方は、観光客の増加による経済的な振興を「まだ実感していない」と回答しています。

＜観光振興に対する期待度＞



[回答者数：298]

＜観光客による経済的な振興の実感＞



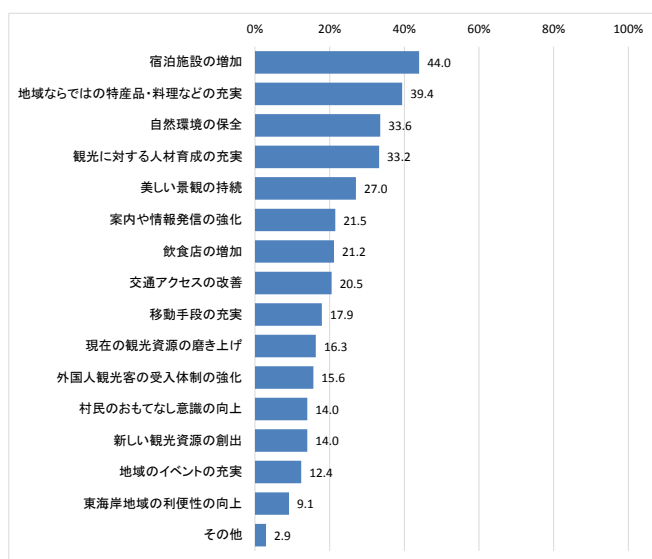
[回答者数：305]

○今後の観光の発展のために重要な事項としては、「宿泊施設の増加」という回答が 44.0%と最も多く、その他、「地域ならではの特産品・料理などの充実（39.4%）」、「自然環境の保全（33.6%）」を挙げる意見が多くなっています。

○村内の観光が発展する中での懸念事項としては、「ごみの増加（53.2%）」や「観光客のマナー（48.5%）」、「景観や自然環境への悪影響（45.8%）」等を指摘する意見が多いです。

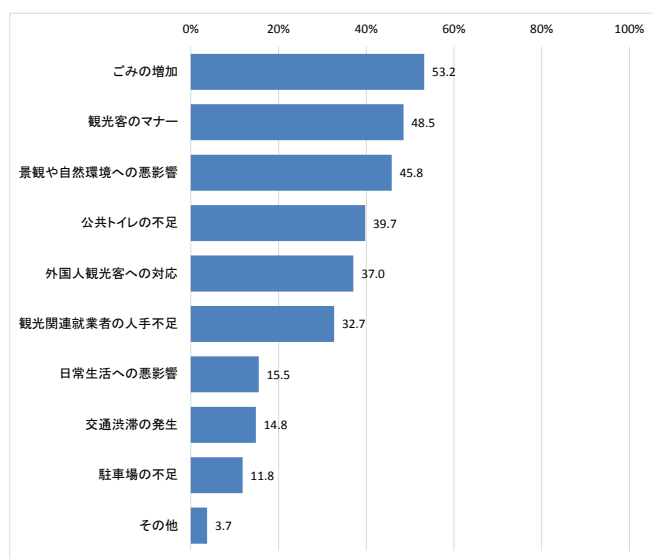
○国頭村が今後目指すべき観光の方向性としては、「緑や海、多様な動植物などの自然が豊かな観光地」という回答が 80.9%と最も多くなっています。

< 村の観光の発展のための重要事項 >



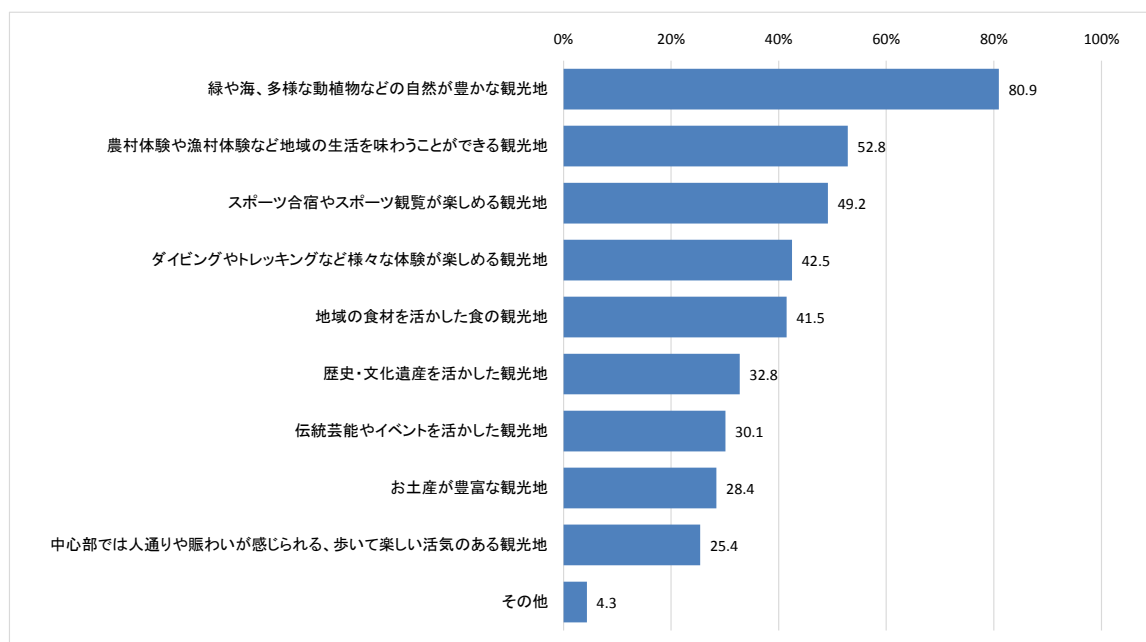
[回答者数 : 307]

< 今後の観光振興に対する懸念 >



[回答者数 : 297]

< 国頭村が今後目指すべき観光の方向性 >



[回答者数 : 299]

(2) 村内事業者の意向

本計画の策定にあたり、村内の観光関連事業者の皆さんの現在の取組み状況や課題意識等を把握するためにアンケート調査を実施しました。

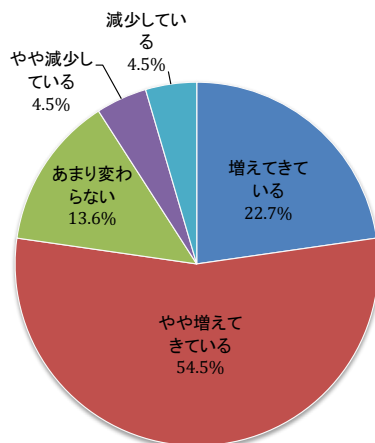
【本調査の概要】

調査対象	： 国頭村内の観光に関連する 53 事業者（施設、店舗等）
調査方法	： 郵送にて調査票の配布、回収を実施
実施時期	： 平成 28 年 9 月 26 日（月）～平成 28 年 10 月 11 日（月）
回収状況	： 回収数 23 サンプル（回収率 35.8%）

①観光客の来訪動向とその影響

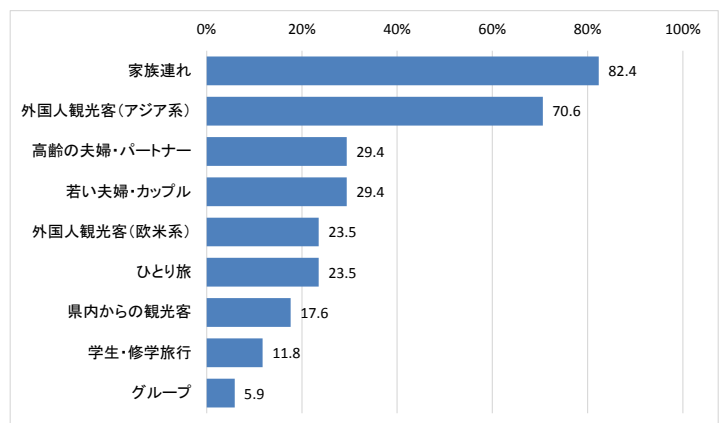
- 回答者の 77.2%が、観光客が「増えてきている」、「やや増えてきている」と回答しています。
- ここ数年で増加している観光客の属性としては、「家族連れ（82.4%）」や「アジア系の外国人観光客（70.6%）」を挙げる意見が多くなっています。

<村を訪れる観光客の増減>



[回答者数：22]

<増加している観光客の属性>

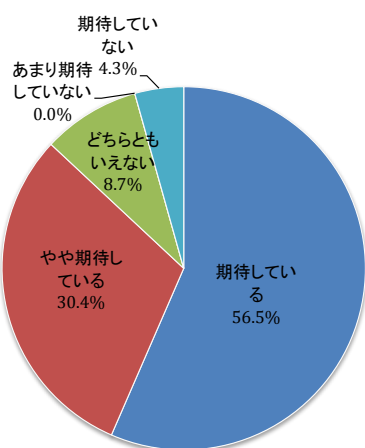


[回答者数：17]

②今後の観光振興の取組みについて

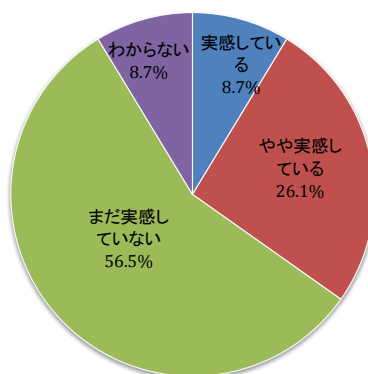
- 今後の観光振興に対する期待度としては、回答者の 86.9%が、「期待している」または「やや期待している」と回答しており、期待度の高さが示されています。
- その一方で、経済的な効果の実感としては、回答者の 56.5%が「まだ実感していない」と回答しており、肯定的な回答は 34.8%となっています。
- 現状の観光に関する取組み上の課題としては、「人材が不足している」という回答が 61.9%と最も多く、今後の観光振興に対する懸念事項としては、「外国人観光客への対応(66.7%)」や「景観や自然環境への影響(61.9%)」を指摘する意見が多く寄せられています。
- また、今後の観光の発展のために重要な事項としては、「宿泊施設の増加(50.0%)」や「地域ならではの特産品・料理などの充実(45.5%)」、「案内や情報発信の強化(40.9%)」といった回答が比較的多くなっています。

＜観光振興に対する期待度＞



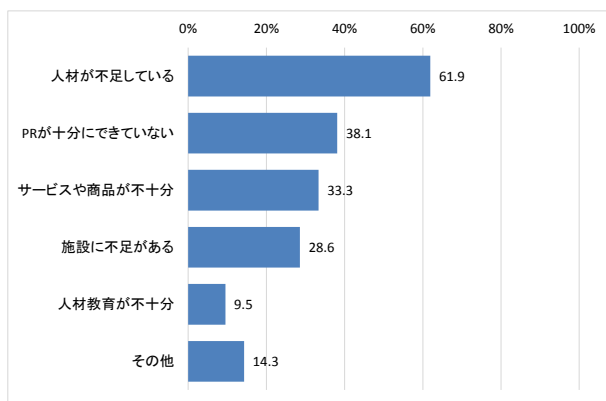
[回答者数：23]

＜観光客による経済的な振興＞



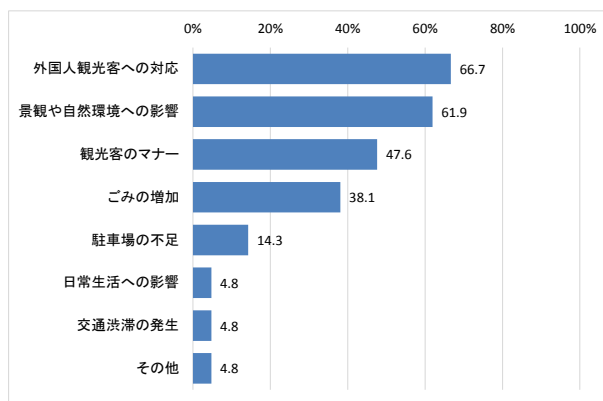
[回答者数：23]

＜現状の取組み上の課題＞



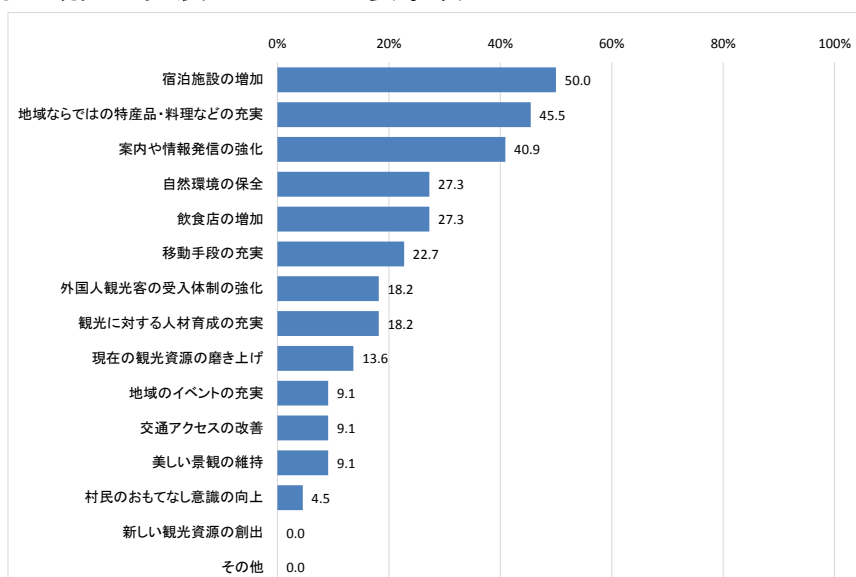
[回答者数：21]

＜今後の観光振興に対する懸念＞



[回答者数：21]

＜村の観光の発展のための重要事項＞



[回答者数：22]

(3) 来訪者の意向

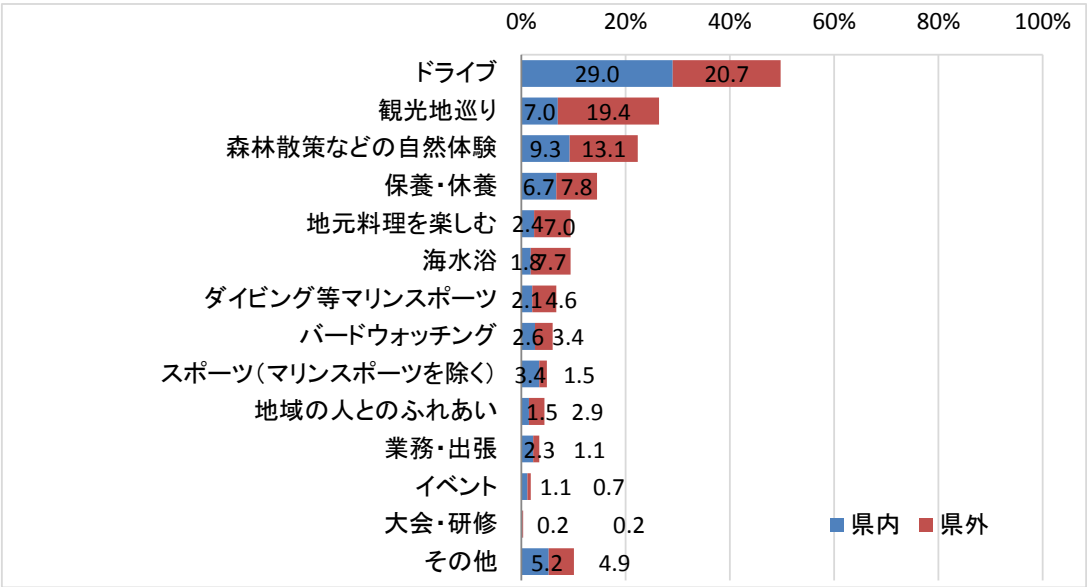
本計画の策定にあたり、国頭村を訪れる観光客の来訪実態や消費行動、満足度等を把握するためにアンケート調査を実施しました。

【本調査の概要】

調査対象	： 国頭村内を訪れる観光客（日本人および外国人）
調査箇所	： 村内の宿泊施設および観光施設（道の駅ゆいゆい国頭、安田くいなふれあい公園）
実施時期	： 宿泊施設 平成 28 年 9 月 7 日（水）～平成 28 年 9 月 19 日（月） 観光施設 平成 28 年 9 月 10 日（土）～平成 28 年 9 月 11 日（日）
回収状況	： 回収数 615 サンプル（宿泊施設 108、観光施設 485）

①国頭村への来訪目的

○国頭村を訪れた観光客の来訪目的としては、「ドライブ」を目的として訪れた方が 49.7%と最も多く、その他には、村内の「観光地巡り(26.4%)」や「森林散策などの自然体験(22.4%)」を目的とした方が多くなっています。



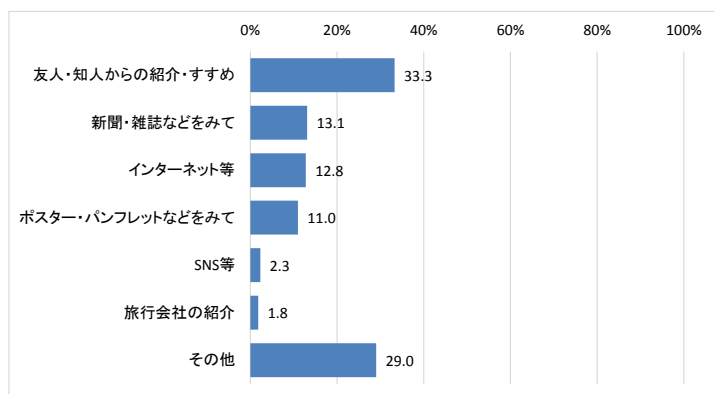
[回答者数 : 613]

②国頭村を訪れたきっかけ・来訪手段

○国頭村を訪れたきっかけとしては、「友人・知人からの紹介・すすめ」という回答が 33.3%と最も多く、その他、「新聞・雑誌などをみて」が 13.1%、「インターネット等」が 12.8%となっています。

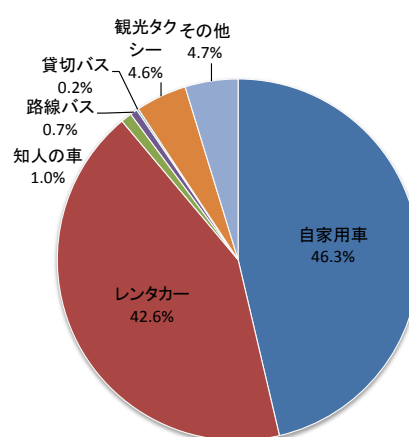
○国頭村までの来訪手段としては、「自家用車」という回答が 46.3%、「レンタカー」という回答が 42.6%となっており、約 9 割を占めている状況です。

<国頭村を訪れたきっかけ>



[回答者数 : 610]

<国頭村への来訪手段>

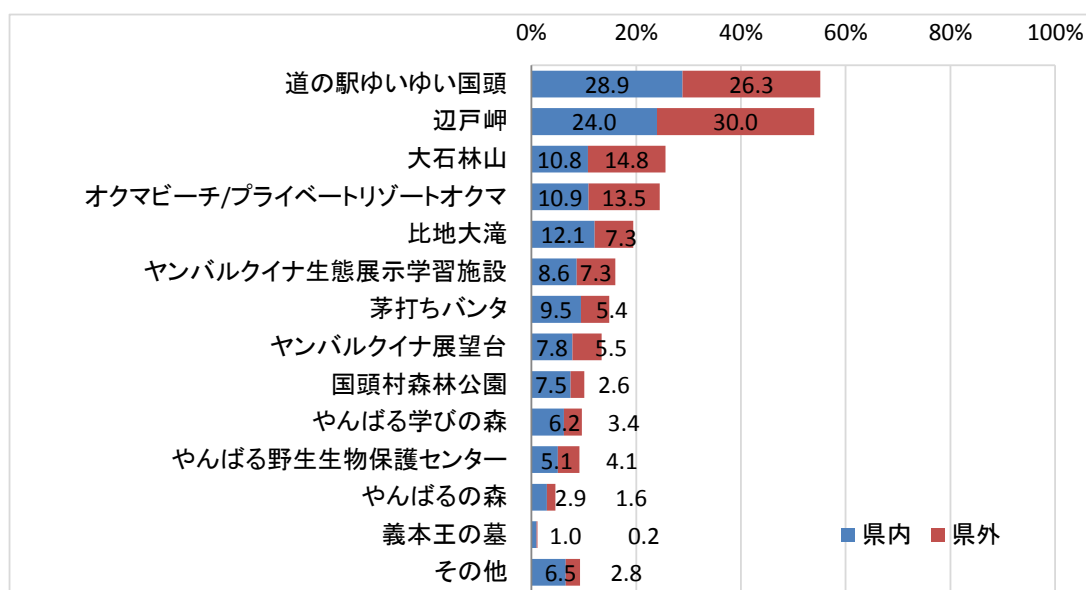


[回答者数 : 613]

③国頭村で訪れた観光場所

○観光客が村内で訪れた施設としては、「道の駅ゆいゆい国頭(55.2%)」や「辺戸岬(54.0%)」を挙げる意見が多く、村内を訪れた観光客の半数以上が訪れたと回答しています。

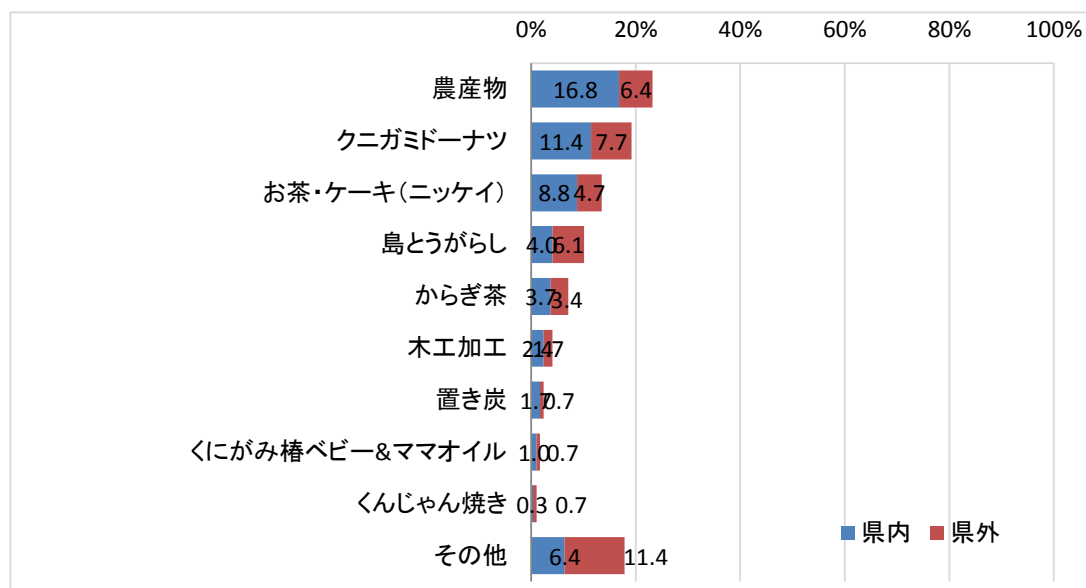
○その他には、「大石林山(25.6%)」や「オクマビーチ/プライベートリゾートオクマ(24.4%)」を訪れたという回答がやや多くなっています。



[回答者数 : 613]

④国頭村内で購入したお土産

○村内を訪れた観光客は、村内で「農産物（23.2%）」や「クニガミドーナツ（19.1%）」等をお土産などで購入している方が比較的多くなっています。



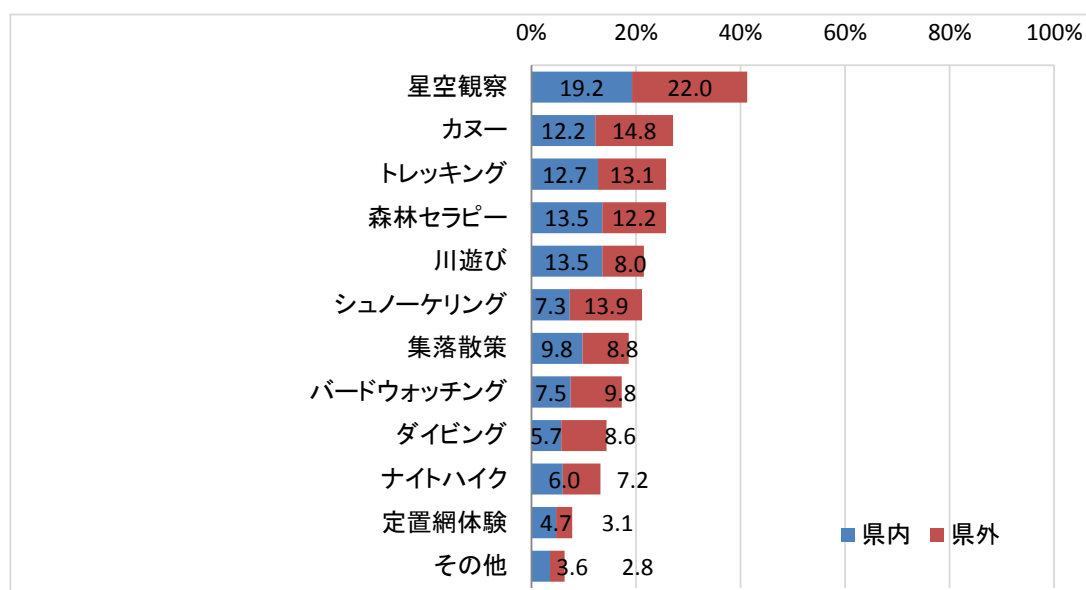
[回答者数 : 293]

【その他の回答】

タンカンジュース/Tシャツ/パイナップル/ヤンバルクイナ泡盛 など

⑤国頭村で体験してみたい事

○今後、村内で体験してみたい事として、「星空観察」を希望する意見が 41.2%と最も多く、その他には、「カヌー（27.0%）」や「トレッキング（25.8%）」、「森林セラピー（25.7%）」を挙げる意見が多くなっています。

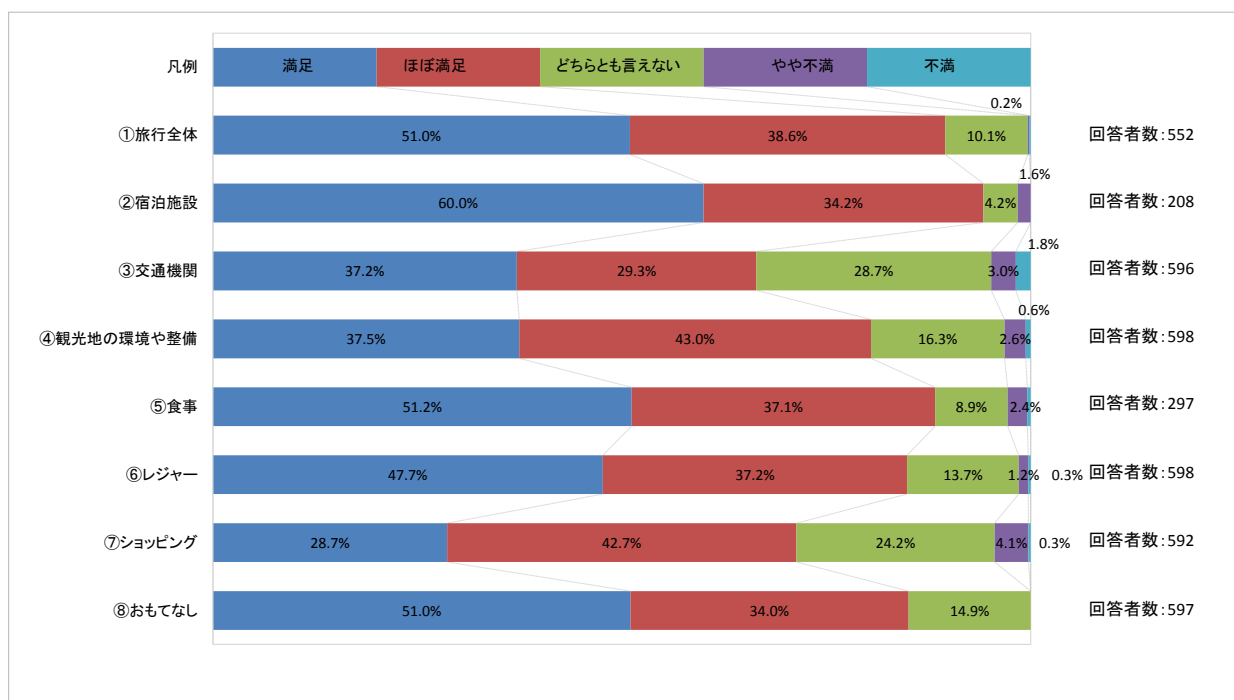


[回答者数 : 613] ※複数回答可

⑥国頭村観光の満足度

○国頭村観光の満足度として、旅行全体では51.0%、宿泊施設が60.0%、交通機関が37.2%、観光地の環境や整備が37.5%、食事が51.2%、レジャーが47.7%、ショッピング28.7%、おもてなしが51.0%となっています。

○項目ごとにみると、「旅行全体」や「宿泊施設」は「満足」または「ほぼ満足」という回答が多く、「交通機関」や「ショッピング」に関しては「満足」または「ほぼ満足」という回答の割合が低くなっています。



（４）沖縄訪問経験者のニーズ

本計画の策定にあたり、国頭村内の観光資源の認知度や魅力度等を把握するために、首都圏在住者を対象としたアンケート調査を実施しました。

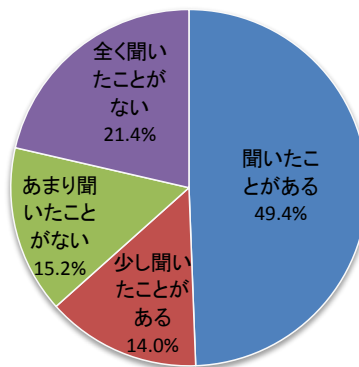
【本調査の概要】

調査対象	： 沖縄県内への訪問経験がある首都圏在住者 （東京都、埼玉県、神奈川県、千葉県、群馬県、山梨県）
実施時期	： 平成 28 年 10 月
回収状況	： 回収数 500 サンプル

①国頭村およびやんばるの知名度

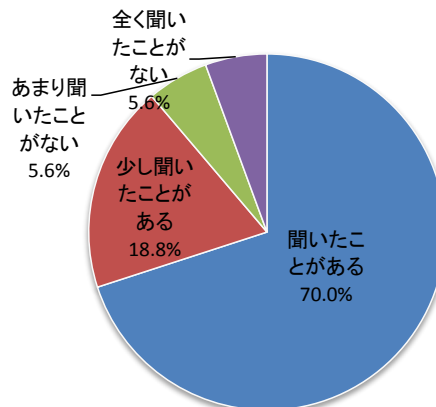
○沖縄県を訪れたことがある県外（首都圏）在住者のうち、「国頭村」の地名を「聞いたことがある」と回答した方は約半数（49.4%）、「やんばる」という地名を「聞いたことがある」と回答した方は 70.0%と、ともに知名度が低い状況です。

<「国頭村」という地名の知名度>



[回答者数：500]

<「やんばる」という地名の知名度>

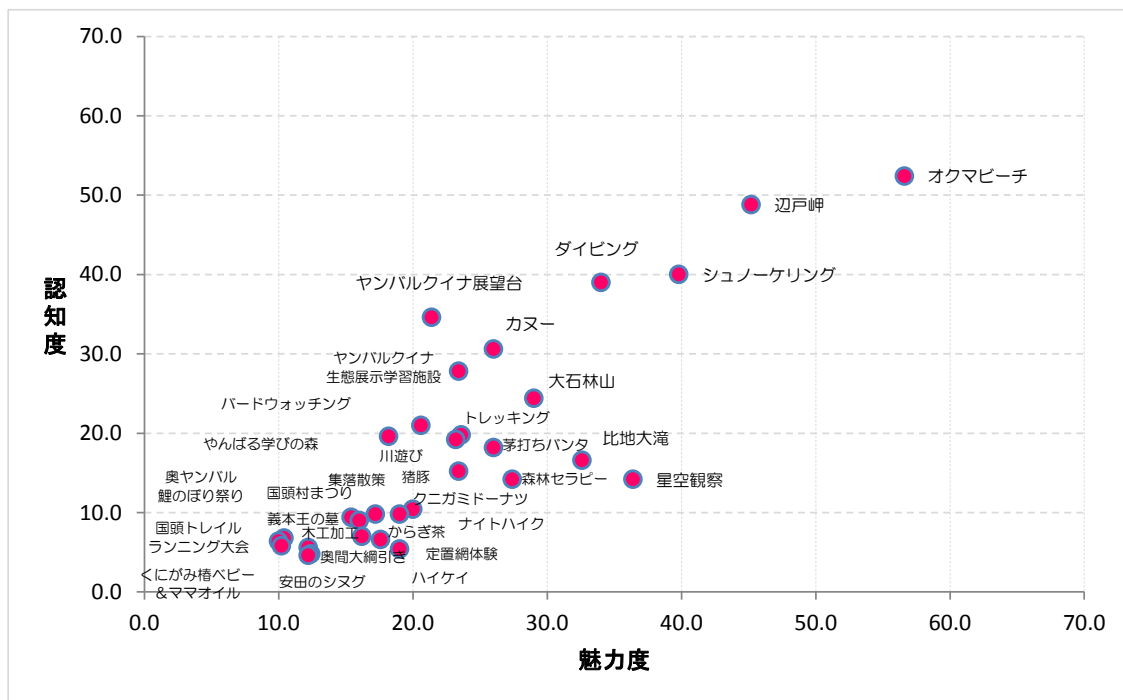


[回答者数：500]

②村内の観光資源の認知度と魅力度

○村内の観光資源のうち、県外の居住者の認知度・魅力度ともに高い観光資源としては、「オクマビーチ」、「辺戸岬」、「シュノーケリング」があります。

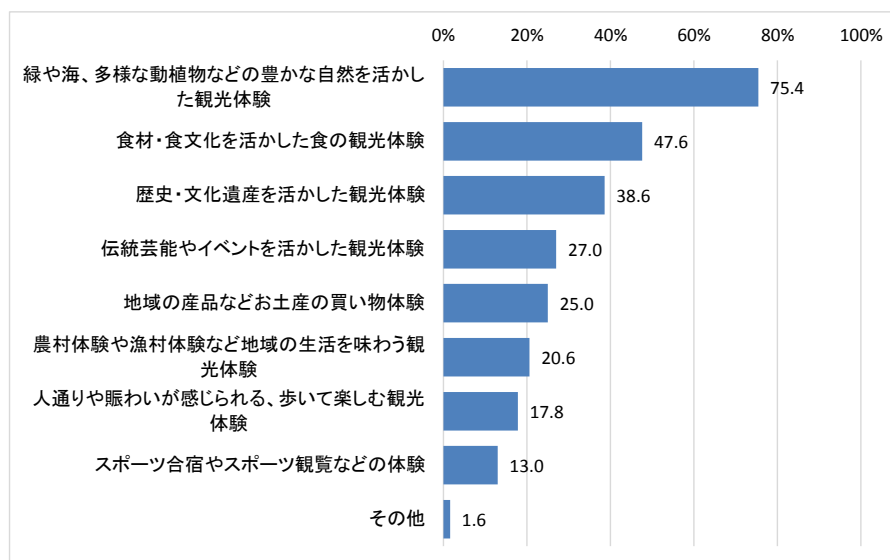
○また、現状の認知度はそれほど高くはありませんが、比較的、観光客が魅力を感じる観光資源として、「星空観察」や「比地大滝」などが挙げられます。



[回答者数 : 500]

③国頭村を訪れてみたいと思う観光体験

○国頭村を訪れてみたいと思う観光体験としては、「緑や海、多様な動植物などの豊かな自然を活かした観光体験」という回答が75.4%と最も多く、その他には、食や歴史文化遺産を活かした観光体験を挙げる意見が多くなっています。



[回答者数 : 500]